

令和2年度・3年度入学生 教育課程

科目名についた丸数字は週あたりの授業時間数です。
 枠内に2つ以上の科目名がある場合は科目を選択することになります。
 表の横軸は週あたりの授業時間数を表しています。

【普通科 普通】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
第1学年		国語総合⑤					現代社会②	数学Ⅰ②	数学Ⅱ①	数学A②	化学基礎②	生物基礎②	体育③	保健①	芸術Ⅰ②	コミュニケーション英語Ⅰ③	英語表現Ⅰ②	家庭基礎②	社会と情報②															
	文科型	現代文B②	古典B③			世界史B③			日本史B③ 地理B③		数学Ⅱ③		数学B②	生物演習A②	地学基礎②	倫理② 芸術Ⅱ②	体育②	保健①	コミュニケーション英語Ⅱ④			英語表現Ⅱ②												
第2学年	理科型	現代文B②	古典B②	世界史A②	日本史A② 地理A②		数学Ⅱ③		数学Ⅲ① 数学演習1①	数学B②	物理基礎②	化学③	物理③ 生物③		体育②	保健①	コミュニケーション英語Ⅱ④			英語表現Ⅱ②														
	文科型	現代文B②	古典B③		政治経済探究④ 日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④ 上記科目から2科目選択 (日本史探究+地理探究は不可)					数学演習A④		生物演習A②	化学演習②/ 地学演習②	体育②	コミュニケーション英語Ⅲ④		英語表現Ⅱ②	数学演習B 生活コー データ 芸術Ⅲ 総合 芸術②																
第3学年	理科型	現代文B②	古典B②	倫理・政経④ 日本史B④ 世界史B④ 地理B④			数学Ⅲ⑤		数学演習2②	化学④	物理④ 生物④		体育②	コミュニケーション英語Ⅲ④			英語表現Ⅱ②																	
	文科型	現代文B②	古典B③		政治経済探究④ 日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④ 上記科目から2科目選択 (日本史探究+地理探究は不可)					数学演習A④		生物演習A②	化学演習②/ 地学演習②	体育②	コミュニケーション英語Ⅲ④		英語表現Ⅱ②	数学演習B 生活コー データ 芸術Ⅲ 総合 芸術②																

1年の芸術Ⅰは「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」から1つ選択します。(国際コミュニケーションコースも同様)

【普通科 国際コミュニケーションコース】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
第1学年		国語総合⑤					現代社会②	数学Ⅰ②	数学Ⅱ①	数学A②	化学基礎②	体育③	保健①	芸術Ⅰ②	コミュニケーション英語Ⅰ③	英語表現Ⅰ②	総合英語②	家庭基礎②	社会と情報②	総合的な探究															
	第2学年	現代文B②	古典B③			世界史B③			日本史B③ 地理B③		数学Ⅱ③		数学B②	生物基礎②	地学基礎②	体育②	保健①	コミュニケーション英語Ⅱ③		英語表現②	異文化理解①	フランス語② 中国語② 韓国・朝鮮語②	総合的な探究												
第3学年	α	現代文B②	古典B③		倫理・政経④ 日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④ 上記科目から2科目選択 (日本史探究+地理探究は不可)					数学演習A④		生物演習B②	化学演習② 地学演習②	体育②	英語理解④		英語表現②	異文化理解①	コミュニケーション②																
	β									フランス語② 中国語② 韓国・朝鮮語②	時事英語②	通訳演習②	英語演習② 総合芸術②																						

2年生国際コミュニケーションコースの「総合的な探求の時間」2単位のうち1単位は、修学旅行の期間等に授業時数を集中的に配当します。

年間指導計画表

教科・科目	国語・現代文B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通 第2学年 普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。また、主体的に読書を行うことによって、社会形成に必要な教養を身につける。これらの言語活動を通じて国語の向上を図り、人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書 精選現代文B (東京書籍) 副教材 新版七訂 新訂総合国語便覧(第一学習社) 国語常識のトレーニング 国語便覧ワークノート(第一学習社) 頻度順 入試漢字の総練習(三省堂) イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語(いづな書店) 問題集 力をつける現代文(標準演習)(数研出版) 進研WINSTEP 現代文2(ベネッセ) 評論速読トレーニング1500(数研出版)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重し、その向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとすることができる。	授業態度 提出物	20%
b. 話す・聞く能力	目的や場面に応じて筋道を立てて話したり、他者へ伝えるための効果的な表現や技法を身につける。	授業態度 提出物 定期考査	10%
c. 書く能力	語句・語彙・漢字などを十分理解し、自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じた適切な文章を書くことができる。	授業態度 提出物 定期考査	20%
d. 読む能力	様々な文章に触れることにより、筆者(作者)の表現意図を的確に読み取り、自分の考えを深め発展させることができる。	授業態度 提出物 定期考査	30%
e. 知識・理解	表現や理解に役立てるため、文法・表記・語句・語彙・漢字などを十分理解し、諸問題に対する基礎知識や、発展問題を考える幅広い知識や解法を身につける。	授業態度 小テスト 提出物 定期考査	20%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	4 5 6	6	評論「世界をつくり替えるために」 ・具体例と筆者の論を整理する。 ・意味段落を捉える。 ・要旨をまとめる。	・対比と類比、具体と抽象を意識し、評論の読解の基本を確認する。 ・要旨を的確にとらえさせる。 ・学ぶことの意味に自分に引き寄せて考えを深めさせる。 ・意見交換などを通じて他者の説明を聞き、新たな考えに触れさせる。	○	○	○	○	○
		7	小説『山月記』 ・作品に固有の言葉の意味を捉える。 ・場面に分け、展開を整理する。 ・登場人物の心情の変化を捉える。	・小説の読解の基本(場面を分ける・人物像を探る)を確認させる。 ・登場人物の心情を叙述に沿って整理しまとめ、説明する力を磨く。 ・自己の生き方を作品のテーマに沿って考えさせる。 ・小説の背景にある作者の生き方に触れさせる。	○	○	○	○	○
		3	評論「相手依存の自己規定」 ・具体例と著者の論を整理する。 ・意味段落を捉える。 ・要旨をまとめる。	・対比と類比、具体と抽象を意識し、評論の読解の基本を確認させる。 ・要旨を的確に読み取り、自分の考えを他者に説明することができる。 ・日本語の言語現象を通して、日本人の自我構造の特質について考えを深める。	○	○	○	○	○
		1		第1回考査	○	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	e
前期	7 8 9	6	評論「人間の運命科学」 ・意味段落を捉える。 ・要旨をまとめる。 ・自己の考えをまとめる。	・論理の展開を整理し、論旨をまとめる力を磨く。 ・筆者の主張に対し、自己の考察をまとめ叙述や意見交換をすることを通じて、現代の科学のあり方について問題意識を深めさせる。	○	○	○	○	○
		6	小説『蠅』 ・作品固有の言葉の意味を捉える。 ・場面に分け、展開を整理する。 ・登場人物の心情の変化を捉える。	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、整理しまとめ、説明する力を磨く。 ・文学作品固有の面白さを味わわせる。 ・視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、主題について考える。	○	○	○	○	○
		4	評論「鏡の中の現代社会」 ・具体例筆者の論を整理する。 ・論構造をまとめる。 ・要旨をまとめる。	・論理の展開を整理し、論旨をまとめ、説明する力を磨く。 ・さまざまな異世界との比較を通して、自分の生きる世界を相対的に認識することの意義を理解する。	○	○	○	○	○
		1		第2回考査			○	○	○
後期	10 11 12	6	評論「原始社会像の真実」 ・具体例筆者の論を整理する。 ・論構造をまとめる。 ・要旨をまとめる。	・論理の展開を整理し、論旨をまとめ、説明する力を磨く。 ・時間的に異なる世界を題材とした文章を読み、社会の変遷を捉える見方を身につける。	○	○	○	○	○
		10	小説『こころ』 ・場面に沿って登場人物の心理を整理し、人物同士の心理的葛藤を捉える。 ・主題を考えまとめる。	・作品全体を通じた読解へと促し、長編小説を読む醍醐味を味わわせる。 ・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、整理しまとめ、説明する力を磨く。 ・夏目漱石の他の作品や、夏目漱石以外の近代文学への興味、関心を高め、読書を促す。 ・作品のテーマを「日本の近代化」という視点で捉えさせ、次の評論「『である』ことと『する』こと」へ接続させる。	○	○	○	○	○
		1		第3回考査			○	○	○
	1 2 3	6	詩歌「竹」「永訣の朝」 短歌抄 ・詩の語の意味を作品全体の中で確認する。 ・鑑賞文をまとめる。	・韻文の解釈の方法を確認し、音読、朗読などの表現活動を通じて鑑賞を深めさせる。 ・作品に固有の表現を通して、作者の人生観、世界観に触れさせる。	○	○	○	○	○
		10	評論「『である』ことと『する』こと」 ・意味段落ごとに要点を整理する。 ・意味段落相互の関係を整理し、論展開をまとめる。	・具体と抽象、比喩と論を意識し、筆者の主張をまとめ、説明する。 ・日本の近代化における問題点を整理し、現代社会がかかえる矛盾について考えを深めさせ、自己の問題として捉えさせる。	○	○	○	○	○
		1		第4回考査		○	○	○	○
【その他】 ・国語の力、とりわけ評論文の読解の力は、国語という教科の枠を超えた総合的な学力の基礎であることを生徒にも強く意識させ指導にあたる。 ・授業で出会った文章が契機となり、関連するテーマを扱った新書(評論文)や、その他の作品(小説)を生徒が主体的に読むよう指導を工夫する。 ・評論文では、読解の基本を確認しながら学習をすすめる。文脈における語意を捉えるといった、表現に即した丁寧な読解と、論展開を意識し主題をまとめるといった、全体の内容を大きく捉える読解の両方を大切にする(部分と全体の往還)。 ・文章のテーマを、常に自己の問題として捉えることを大切にし、さらに、小論文への接続、修学旅行(総合的な学習)などの他教科との有機的なつながりを生徒に意識させ指導にあたる。									

年間指導計画表

教科・科目	国語・古典B	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年 普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書 高等学校 古典B 古文編・漢文編(三省堂) 副教材 新訂五訂 カラー版新国語便覧(第一学習社) 国語常識のトレーニング 国語便覧ワークノート(第一学習社) 古文単語330(いづな書店) 問題集 漢文必携チェックノート応用編(桐原書店) 力をつける古文ステップ2(数研出版) 力をつける漢文ステップ2(数研出版) 進研WINSTEP古典2(ベネッセ)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度 提出物	20%
b. 話す・聞く能力			
c. 書く能力			
d. 読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度 提出物 定期考査	40%
e. 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	授業態度 小テスト 提出物 定期考査	40%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	4 5 6	12	随筆『枕草子』 「二月つごもりごろに」 「雪のいと高う降りたるを」 ・中古の随想を読み、人間、社会に対する作者の感性を読み取る。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。 ・登場人物の行動や心情を展開に即してとらえ、説明することができる。 ・平安時代の宮廷生活について理解を深める。	○			○	○
		12	史伝『史記』 「鴻門之会」 ・長編の歴史書を読み、登場人物の行動や心情を読み取る。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・漢楚の興亡の歴史をふまえて話の内容を理解する。 ・登場人物の行動や心情を、構成や展開に即して捉え、説明することができる。 ・句法に注意しながら、正確に訳出する。	○			○	○
		3	随筆『方丈記』 「ゆく川の流る」 ・中世の随想を読み、人間、社会に対する作者の感性を読み取る。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。 ・文体(漢文訓読)に親しみ、味わう。 ・当時の社会背景を理解し、無常観、仏教思想などについて理解を深める。 ・その時代に生きる作者や当時の人の人生観を読み取り、説明できる。	○			○	○
	1		第1回考査				○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	7 8 9	10	日記『更級日記』 「あこがれ」 「源氏の五十余巻」 ・日記を読み、人間、社会に対する作者の感性を読み取る。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。 ・『源氏物語』を中心とする女流文学の流れを学習し、当時の宮廷生活について理解を深める。 ・登場人物の行動や心情を展開に即してとらえ、説明することができる。	○			○	○
		5	史伝『史記』 「四面楚歌」 ・故事成語の由来を理解し、現代における用法を習得する。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、句法を理解し、解釈にいかす。 ・比喩表現や対句表現など、漢文に特有の修辞技法を理解する。	○			○	○
		5	小話『説苑』 「不顧後患」 ・故事成語の由来を理解し、現代における用法を習得する。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、句法を理解し、解釈にいかす。 ・比喩表現や対句表現など、漢文に特有の修辞技法を理解する。	○			○	○
		7	物語『伊勢物語』 「初冠」 「小野の雪」 ・歌物語を読み、和歌に表現された心情を理解する。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。 ・登場人物の行動や心情を表現に即して理解し、適切に説明する。 ・和歌の修辞技巧について学習を深める。 ・和歌を表現に即し解釈する方法を学習する。	○			○	○
		1		第2回考査				○	○
後期	10 11 12	16	物語『源氏物語』 「桐壺」 「北山の垣間見」 ・古典文学の最高傑作とされる物語を読み、作品世界に表現された普遍的な人間の心情を理解する。	・『源氏物語』を中心とする女流文学の流れを再度確認し、後世の日本文学に与えた影響について理解を深める。 ・重要古語や助詞、敬語についての学習を深め、正確に訳出する。 ・登場人物の行動、心情を表現に即して理解し説明する。 ・文学作品(虚構)としての作品を鑑賞する。中国文学との関連も理解する。	○			○	○
		6	文章『古文真宝』 「漁父辞」 ・思想の概要を理解し、文章を通して人間の生き方の多様性を知る。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、句法を理解し、解釈にいかす。 ・古代の思想から現代に通じるもの見方、考え方を知る。	○			○	○
		5	思想と寓話 『孟子』『老子』『莊子』『韓非子』 ・思想の概要を理解し、文章を通して人間の生き方の多様性を知る。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、句法を理解し、解釈にいかす。 ・古代の思想から現代に通じるもの見方、考え方を知る。	○			○	○
		1		第3回考査				○	○
		5	思想と寓話 『孟子』『老子』『莊子』『韓非子』 ・思想の概要を理解し、文章を通して人間の生き方の多様性を知る。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、句法を理解し、解釈にいかす。 ・古代の思想から現代に通じるもの見方、考え方を知る。	○			○	○
1 2 3	12	物語『大鏡』 「花山院の出家」「弓争い」 ・歴史物語を読み、戯曲的な構成を味わい、登場人物の行動と心情を理解する。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。中古から中世への歴史物語の流れを理解し、『大鏡』の文学史的意義について学習する。 ・重要古語や助詞、敬語について、既習の知識を生かし、正確に訳出する。 ・登場人物の行動、心情を表現に即して理解し説明する。	○			○	○	
	10	史伝『史記』 「完璧帰趙」 「刎頸之交」 ・長編の歴史書を読み、登場人物の行動や心情を読み取る。	・訓点により話の内容を的確に捉え、故事成語の由来を理解する。 ・戦国時代の歴史をふまえて話の内容を理解する。 ・登場人物の行動や心情を、構成や展開に即して捉え、説明する。 ・漢文独特の誇張表現を味わう。	○			○	○	
	1		第4回考査				○	○	

古典作品には、現代とは異なる文化や価値観の中で、人々がどのように生き、考えてきたのかが表れている。多くの古典作品を読むことで、当時の人々の心情や価値観や理解するとともに、現代を生きる自分自身や日本人の価値観についても深く考えさせたい。古文では『源氏物語』『枕草子』など中古を中心とした作品、漢文では、『史記』を中心に、本格的な古典作品を学習する。高1での、語法、語意等に関する基礎事項をふまえながら、正確な訳出、解釈に必要な知識を段階的に学習し、確かな基礎力につなげていく。

年間指導計画表

教科・科目	国語・古典B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書 高等学校 古典B 古文編・漢文編(三省堂) 副教材 新訂五訂 カラー版新国語便覧(第一学習社) 国語常識のトレーニング 国語便覧ワークノート(第一学習社) 古文単語330(いづな書店) 問題集 漢文必携チェックノート応用編(桐原書店) 力をつける古文ステップ2(数研出版) 力をつける漢文ステップ2(数研出版) 進研WINSTEP古典2(ベネッセ)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度 提出物	20%
b. 話す・聞く能力			
c. 書く能力			
d. 読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度 提出物 定期考査	40%
e. 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	授業態度 小テスト 提出物 定期考査	40%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	4 5 6	10	随筆『枕草子』 「二月つごもりごろに」 「雪のいと高う降りたるを」 ・中古の随想を読み、人間、社会に対する作者の感性を読み取る。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。 ・登場人物の行動や心情を展開に即してとらえ、説明することができる。 ・平安時代の宮廷生活について理解を深める。	○			○	○
		8	史伝『史記』 「鴻門之会」 ・長編の歴史書を読み、登場人物の行動や心情を読み取る。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・漢楚の興亡の歴史をふまえて話の内容を理解する。 ・登場人物の行動や心情を、構成や展開に即して捉え、説明することができる。・句法に注意しながら、正確に訳出する。	○			○	○
		2	随筆『方丈記』 「ゆく川の流れ」 ・中世の随想を読み、人間、社会に対する作者の感性を読み取る。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。 ・文体(漢文訓読)に親しみ、味わう。 ・当時の社会背景を理解し、無常観、仏教思想などについて理解を深める。 ・その時代に生きる作者や当時の人の人生観を読み取り、説明できる。	○			○	○
		1		第1回考査				○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	7 8 9	10	日記『更級日記』 「あこがれ」 「源氏の五十余巻」 ・日記を読み、人間、社会に対する作者の感性を読み取る。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する。 ・『源氏物語』を中心とする女流文学の流れを学習し、当時の宮廷生活について理解を深める。 ・登場人物の行動や心情を展開に即してとらえ、説明することができる。	○			○	○
		8	史伝『史記』 「四面楚歌」 小話『説苑』 「不顧後患」 ・故事成語の由来を理解し、現代における用法を習得する。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、句法を理解し、解釈にいかす。 ・比喩表現や対句表現など、漢文に特有の修辞技法を理解する。	○			○	○
		1		第2回考査				○	○
後期	10 11 12	14	物語『源氏物語』 「桐壺」 「北山の垣間見」 ・古典文学の最高傑作とされる物語を読み、作品世界に表現された普遍的な人間の心情を理解する。	・『源氏物語』を中心とする女流文学の流れを再度確認し、後世の日本文学に与えた影響について理解を深める。 ・重要古語や助詞、敬語についての学習を深め、正確に訳出する。 ・登場人物の行動、心情を表現に即して理解し説明する。 ・文学作品(虚構)としての作品を鑑賞する。中国文学との関連も理解する。	○			○	○
		4	文章『古文真宝』「漁父辞」 ・思想の概要を理解し、文章を通して人間の生き方の多様性を知る。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、句法を理解し、解釈にいかす。 ・古代の思想から現代に通じるものの見方、考え方を知る。	○			○	○
		1		第3回考査				○	○
	1 2 3	4	思想と寓話 『孟子』『老子』『荘子』『韓非子』 ・思想の概要を理解し、文章を通して人間の生き方の多様性を知る。	・訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、句法を理解し、解釈にいかす。 ・古代の思想から現代に通じるものの見方、考え方を知る。	○			○	○
		10	物語『大鏡』 「花山院の出家」 ・歴史物語を読み、戯曲的な構成を味わい、登場人物の行動と心情を理解する。	・読解に必要な基本語彙や助詞・助動詞及び、敬語を含めた文法事項を総合的に理解する・中古から中世への歴史物語の流れを理解し、『大鏡』の文学史的意義について学習する。 ・重要古語や助詞、敬語について、既習の知識を生かし、正確に訳出する。 ・登場人物の行動、心情を表現に即して理解し説明する。	○			○	○
		4	史伝『史記』 「完璧帰趙」 ・長編の歴史書を読み、登場人物の行動や心情を読み取る。	・訓読により話の内容を的確に捉え、故事成語の由来を理解する。 ・戦国時代の歴史をふまえて話の内容を理解する。 ・登場人物の行動や心情を、構成や展開に即して捉える。 ・漢文独特の誇張表現を味わう。	○			○	○
		1		第4回考査				○	○
<p>古典作品には、現代とは異なる文化や価値観の中で、人々がどのように生き、考えてきたのかが表れている。多くの古典作品を読むことで、当時の人々の心情や価値観や理解するとともに、現代を生きる自分自身や日本人の価値観についても深く考えさせたい。古文では『源氏物語』『枕草子』など中古を中心とした作品、漢文では、『史記』を中心に、本格的な古典作品を学習する。高1での、語法、語意等に関する基礎事項をふまえながら、正確な訳出、解釈に必要な知識を段階的に学習し、確かな基礎力につなげていく。</p>									

年間指導計画表

教科・科目	世界史 A	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解する。現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書「世界史A 新訂版」実教出版 副教材「グローバルワイド最新世界史図表」第一学習社 「世界史重要語句チェックリスト」啓隆社

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる人間であろうとする。	授業態度 提出物	10%
b. 思考・判断・表現	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
c. 資料活用の技能	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
d. 知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	18	世界の一体化 ルネサンスと宗教改革	大航海時代・ルネサンス・宗教改革などヨーロッパの近代化の歩みについて理解する。	○		○	
			ヨーロッパの主権国家体制	西欧各国の王権強化と絶対王政の構造を理解する。		○	○	
			アジアの繁栄と世界	アジアに成立した君主独裁国家と、そこに進出してくるヨーロッパ諸国の動向について学ぶ。	○			○
			世界経済体制の形成 産業革命と工業化社会の成立	産業革命の背景を理解し、資本主義社会の成立の過程を明らかにする。またその対局として生まれた社会主義について学ぶ。	○	○		
			市民革命 ウィーン体制とその崩壊	市民革命(イギリス革命・アメリカ独立革命・フランス革命)の背景とその成果をふまえ、欧米諸国の変革を理解する。			○	○
			第1回考査		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	17	ヨーロッパ国民国家の発展	イタリア・ドイツ統一や南北戦争を通して、近代国家形成の過程を理解する。		○		○
			アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動 東アジアの変容と日本の近代化	欧米による植民地獲得の動きを、中国・インドを中心に学ぶことで理解する。また東方的専制国家が崩壊していく過程を学ぶ。	○	○		
			激動する社会と帝国主義	植民地獲得の動きが第二次産業革命の進展を促し、帝国主義の時代に突入していくことを理解する。		○		○
				第2回考査		○	○	○
後期	10 11 12	18	第一次世界大戦とロシア革命	第一次世界大戦の原因・経過・結果を学ぶ。			○	○
			大戦間のヨーロッパとアメリカ 民族運動の高まり	第一次世界大戦後の欧米各国の様子を、ヴェルサイユ体制や世界恐慌を中心に学ぶ。また、アジア各国で起こる欧米諸国に対する民族運動について理解する。		○	○	
			第二次世界大戦	第二次世界大戦の原因・経過・結果を学ぶ。	○			○
				第3回考査		○	○	○
	1 2 3	17	冷たい戦争 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 多極化の進展と冷戦体制の崩壊	第二次世界大戦後の世界の諸問題について、特に米ソの対立を中心に理解する。またアジア・アフリカなどの諸民族・諸国家の動きに注意する。		○		○
			現代社会の諸問題	政治・国際紛争のみならずテロ・貧困などの現代社会の諸問題を取り上げ、その背景や原因を学ぶ。	○			○
				第4回考査		○	○	○
<p>【その他】 歴史を学習することは知識を獲得するだけに終始してはいけません。獲得した知識を使って思考し、自分の考えを表現できるようになってください。歴史の流れを理解し、歴史の上に成り立つ現在とのつながりを考えながら学習していきましょう。</p> <p>【その他】 新高等学校学習指導要領の領土に関する規定を適用する。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	世界史B	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年 普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書「詳説 世界史」山川出版 副教材「グローバルワイド最新世界史図表」第一学習社 「世界史重要語句チェックリスト」啓隆社

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	授業態度 提出物	10%
b. 思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
c. 資料活用の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	26	先史の世界 古代オリエント世界	人類の誕生とその進化について学ぶ。 古代オリエントの歴史について、各民族の特性や文化を中心に理解していく。	○		○	
			古代ギリシア・ローマ世界	古代ギリシア・ローマの歴史を理解するとともに、ヨーロッパの歴史的・文化的遺産の多くの源流を、古代ギリシア・ローマに求めることができることを理解する。		○	○	
			インドの古典文明	インド古典文明の特色を、宗教を中心に学ぶ。	○		○	
			東南アジアの諸文明	インドや中国との交流を意識しながら、東南アジアの歴史を学ぶ。		○		○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	27	南北アメリカ文明	アメリカの古代文明について学ぶ。	○		○	
			草原の遊牧民とオアシスの定住民 北方民族の活動と中国の分裂	中央アジアや中国北方民族の特色ある活動について理解する。		○	○	
			東アジア文化圏の形成	中国文化とその影響を受けた周辺諸国により、東アジア文化圏が形成されていったことを理解する。	○		○	
				第2回考査		○		○
後期	10 11 12	26	イスラーム世界の形成と発展	イスラーム文明の特色とこの世界の発展について、現代状況と照らし合わせて理解を深める。	○			○
			ヨーロッパ世界の形成と発展	ヨーロッパ社会の民族と宗教について、西ヨーロッパと東ヨーロッパにのの違いに注目しながら理解を深める。 キリスト教の発展と中世文化の特色を明らかにする。		○	○	
			内陸アジア世界 東アジア世界の展開	東西を結ぶ交易ルートについての理解を深める。 明・清を中心に、隣接諸地域の歴史的な理解を深める。	○		○	
	1 2 3	26	アジア諸地域の繁栄	西アジア・南アジアの歴史をイスラームとの関係から学ぶ。		○	○	
				第4回考査		○	○	○
<p>【その他】 歴史を学習することは知識を獲得するだけに終始してはいけません。獲得した知識を使って思考し、自分なりの考えを表現することができるようになってください。歴史の流れを理解し、歴史の上に成り立つ現在とのつながりを考えながら学習していきましょう。</p> <p>【その他】 新高等学校学習指導要領の領土に関する規定を適用する。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史科 日本史 A	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「日本史A 改訂版」(山川出版社) 副教材:「新詳日本史」(浜島書店) 「日本史重要語句チェックリスト」(啓隆社) 「ゼミナール日本史」(浜島書店)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	我が国の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	授業態度 提出物	10%
b. 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
c. 資料活用の技能	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
d. 知識・理解	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業プリント作業 定期考査 小テスト 提出物	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	18	近世社会の動揺	18世紀、農業・商業・手工業の発展に伴う社会変動や飢饉などの自然災害に対応できず、幕藩体制が動揺していく過程を考察できる。	○		○	
			開国と明治維新	日米和親条約・日米修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できる。		○	○	
	5		廃藩置県・徴兵制度・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できる。	○	○			
			近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことが理解できる。また、言論による抵抗に移行する要因を考察できる。			○	○	
	6		国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえることができる。	○			○	
			第1回考査		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	17	立憲国家の成立	国会開設要求の運動などにみられる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察できる。また、憲法の特色などを通じて戦前の立憲制の仕組みが理解できる。		○	○	
				条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を年表や地図から考察できる。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景になった点を理解できる。	○		○	
				日露戦争が国家の総力を結集して戦われた点を考察できる。また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立を刺激した反面、韓国併合などが近隣諸国の受け止め方への変化に繋がったことを考察できる。	○		○	
	8			殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連付けて考察できる。	○			○
	9			劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鋇毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できる。	○	○		
			国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できる。				○	○
			第2回考査			○	○	○
後期	10	18	第一次世界大戦と日本	大戦景気に着目して資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できる。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目して政党の役割と動向について考察できる。	○		○	
				ヴェルサイユ体制からワシントン体制にいたる経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できる。		○		○
	11			学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化のかかわりと浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できる。	○			○
				戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解できる。		○	○	
	12			第3回考査		○	○	○
						満州事変から国際連盟の脱退にいたる日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できる。	○	
	1	17	第二次世界大戦と日本	中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など様々な角度から考察できる。		○		○
	連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジア諸国に損害を与えたことや日本も原爆投下など空前の戦禍を被ったことに着目できる。			○			○	
	主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を国民生活の状況も踏まえて考察できる。				○	○		
2	サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できる。			○		○		
			保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生にいたるまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できる。	○			○	
			現代の世界と日本	冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取り上げて考察できる。	○		○	
	3		第4回考査			○	○	○
【年間の学習状況の評価方法】 1 授業への取り組み状況 2 提出物 授業ファイル・問題集の提出を各考査ごとに課す 3 テストの実施 各単元終了ごとに小テスト、前後期で4回定期考査を実施する。 【その他】 新高等学校学習指導要領の領土に関する規定を適用する。								

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史科 日本史B	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年 普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説日本史 改訂版」(山川出版社) 副教材:「新詳日本史」(浜島書店) 「日本史重要語句チェックリスト」(啓隆社) 「ゼミナール日本史」(浜島書店)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	我が国の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	授業態度 提出物	10%
b. 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
c. 資料活用の技能	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
d. 知識・理解	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業プリント作業 定期考査 小テスト 提出物	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	26	日本文化のあけぼの	日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができる。 小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料に基づき国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できる。 古墳の形状や大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察できる。 中国及び高句麗・新羅・百済など朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教など大陸文化の受容を踏まえヤマト政権の成立についてとらえることができる。	○			○
	5		律令国家の形成	推古朝の政権運営や飛鳥文化の形成について仏教の受容や遣隋使などの大陸との交流を踏まえて考察できる。	○			○
	6			第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	27	貴族政治と国風文化	平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について遣唐使の派遣や地方社会との関わりなども踏まえて考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	8			文献資料を基に藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる公地公民の崩れなど、土地制度の変容を関連付けて考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	8			盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できる。		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	9			藤原氏北家が権力を掌握していく過程を理解し律令体制の変容の観点から摂関政治を考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	9			国際関係の変化や遣唐使の中止などを踏まえ浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文字の成立による国文学の発達に着目して貴族の生活・文化を理解できる。	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>
				文献資料を活用し国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				第2回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
後期	10	26	中世社会の成立	武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができる。	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>
	11			延久の荘園整理令により荘園公領制が明確化されたことを踏まえて院政の政治構造や経済・社会・文化を理解できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	11			源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などに着目することができる。		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	12			蒙古襲来、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
				第3回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
後期	1	26	武家社会の成長	鎌倉仏教の多様な動き、社会的・思想的な意義やその影響について考察できる。この時代の文学・絵巻物・彫刻の特徴に着目できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	1			鎌倉幕府の滅亡、建武政権の成立と崩壊を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構確立について理解できる。		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	1			惣村の形成や土一揆の発生など庶民による自治的な組織の成立に着目して応仁の乱に代表される室町幕府の動揺や衰退を考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	2		南北朝・北山・東山文化を通じて武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生花などを例にとり理解できる。			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	2		富国強兵策を推進して領国統治を強化した戦国大名、堺や博多など都市の発展を踏まえて戦後国の日本の多様性を考察できる。	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
3	幕藩体制の確立	鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
				幕藩体制との繋がりに着目し、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できる。	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>
				第4回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【年間の学習状況の評価方法】 1 授業への取り組み状況 2 提出物 授業ファイル・問題集の提出を各考査ごとに課す 3 テストの実施 各単元終了ごとに小テスト、前後期で4回定期考査を実施する 【その他】 新高等学校学習指導要領の領土に関する規定を適用する。								

年間指導計画表

教科・科目	地理 A	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「高等学校新地理A」(帝国書院)・「詳解現代地図」(二宮書店) 副教材:「新編地理資料2021」(東京法令出版) 「2021データブックオブ・ザ・ワールド」(二宮書店) 「Newコンパスノート」(東京法令出版)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	観察 ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査	30%
c. 資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査	10%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	地球上の位置と国家	地球状での位置や、緯度・経度の概念を習得し、様々な地図について学ぶ。			○	○
			グローバル化が進む世界	国家間の結びつきの変化や現代世界の経済機構、国連の役割や交通・通信・貿易などについて理解する。		○		○
			人々の生活と地形	多様な地形の成り立ちや位置を把握するとともに、人々の生活と地形との関係性について理解する。		○		○
			人々の生活と気候	気候要素や気候因子と世界の気候の特徴を把握し、人々の生活と気候との関係性について理解する。		○		○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	人々の生活と産業	世界の農業や工業の成り立ちや特徴について把握し、今日の産業地域の変遷や内容の変化について理解する。	○			○
			東アジア・東南アジア・南アジアの生活・文化	東アジア・東南アジア・南アジアにおける人々の生活や文化の特徴を理解する。		○		○
第2回考査						○	○	○
後期	10 11 12	18	中央アジア・西アジア・アフリカの生活・文化	中央アジア・西アジア・アフリカにおける人々の生活や文化の特徴を理解する。		○		○
			ヨーロッパ・ロシアの生活・文化	ヨーロッパやロシアにおける人々の生活や文化の特徴を理解する。		○		○
			アングロアメリカ・ラテンアメリカ・オセアニアの生活・文化	アングロアメリカ・ラテンアメリカ・オセアニアにおける人々の生活や文化の特徴を理解する。		○		○
第3回考査						○	○	○
	1 2 3	17	世界の環境問題・資源・エネルギー問題	環境問題や、資源・エネルギー問題の現状を把握し、その解決方法について考察する。		○		○
			世界の食糧問題・都市問題	世界の食糧問題や都市問題の現状や原因を追究し、その解決方法について考察する。	○			○
第4回考査						○	○	○
【その他】 新高等学校学習指導要領の領土に関する規定を適用する。								

年間指導計画表

教科・科目	地理B	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年 普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「新祥地理B」(帝国書院)・「詳解現代地図」(二宮書店) 副教材:「新編地理資料2021」(東京法令出版) 「2021データブックオブ・ザ・ワールド」(二宮書店) 「Newコンパスノート」(東京法令出版)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	観察 ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査	30%
c. 資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査	10%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	26	地図とその利用	人間生活において不可欠な地図を多角的な視点から学習する。古くから今日まで使用している地図や、グローバル化社会において必然的に生まれた新しい地図を活用する技法を学び、地理的な見方や考え方を養わせる。			○	○
			世界の地形	人間生活において、地形がどのように形成され、どのように関わっているか考察させる。		○		○
			世界の気候	地球規模の気候全般について考察させ、気候が人間生活に与える影響を考察させる。		○		○
			日本の自然	日本の自然の特徴を振り返り、自然環境と密接に関連する各地域の人々の生活を把握させる。		○		○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	27	環境問題	今日ある環境問題やこれまでの改善策を概観させ、今後の環境問題の改善策を考察させる。	○			○
			世界の農林水産業	自然環境や社会環境の制約を多分に受ける農林水産業が、どのように発達し、変容を遂げてきたかを具体的に把握させる。 第2回考査		○		○
後期	10 11 12	26	食糧問題	食糧に関する様々な問題をグローバルな視点で概観させ、自分たちに何ができるか考察させる。	○			○
			世界のエネルギー・鉱産資源	「工業」の事前学習として、世界のエネルギー資源・鉱産資源の分布や特色を把握させる。 第3回考査		○		○
	1 2 3	26	資源・エネルギー問題	世界のエネルギー資源や鉱産資源にまつわる諸問題を理解させ、その解決策を考察させる。		○		○
			世界の工業	世界と日本における工業の発達や立地について理解させ、世界の工業地域とその変容、そして今日の第三次産業の発展や世界的な動向について考察させる。 第4回考査		○		○
【その他】 新高等学校学習指導要領の領土に関する規定を適用する。								

年間指導計画表

教科・科目	公民、倫理	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体として自己を確立し、良識ある公民として必要な能力と態度をみにつける。
使用教科書・副教材等	教科書「高等学校新倫理最新版」(清水書院) 副教材「詳細倫理資料新訂版」(実教出版) 「改訂版4ステージ演習ノート倫理」(数研出版) 「用語集倫理新訂第4版」(清水書院)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	倫理的課題に関心を持ち、探求へと向かう態度をもつ。	授業中の反応課題	25%
b. 思考・判断・表現	多面的・多角的な観点で公正に判断し表現できる。	授業中の反応課題、考査	25%
c. 技能	良質な資料(データ)を批判的に読解し活用できる。	授業中の反応課題、考査	25%
d. 知識・理解	倫理についての諸概念をより精確に身に付けている。	授業中の反応課題、考査	25%

3 学習計画

学期	月	時数	主な学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	19	青年期の課題	心理学の観点から青年期の特徴と課題を習得する。		○		○
	5		源流思想基礎	東西の先哲の世界観・人間観・人生観を概観する。 → 第1回考査	○		○	
	6	16	源流思想応用	東西の先哲の世界観・人間観・人生観を習得する。	○			○
	7		西洋思想基礎	近代社会成立の基礎となった西洋思想を概観する。 → 第2回考査	○			○
8								
9								

後期	10	18	西洋思想応用	近代社会成立の基礎となった西洋思想を習得する。		○	○	
	11		近現代の思想	現代社会へと変容させる基盤となった思想を習得する。 → 第3回考査	○		○	
	12	17	日本の思想	思想を受容しつつも変容させる日本の特徴を習得する。		○	○	
	1		現代の諸課題	先哲等の世界観・人間観・人生観を諸課題に応用する。 → 第4回考査	○			○
2								
3								
【その他】								
学校図書館には思想家の著作が豊富にあります。原典にチャレンジしてみましょう。								

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学Ⅱ 数学・数学B 数学・数学Ⅲ	単位数	3+2+1
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅱでは図形の性質を方程式を用いて論理的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察する力を身に付ける。数学Bでは離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し、考察する力を身に付ける。数学Ⅲでは関数関係をより深く捉えて、局所的な性質や大域的な性質に着目し、考察する力を身に付ける。
使用教科書・副教材等	教科書 数研出版 数学Ⅱ, 数研出版 数学B, 数研出版 数学Ⅲ 副教材 数研出版 4STEP数学Ⅱ・B, 数研出版 4STEP数学Ⅲ 数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B, 数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅲ

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。ベクトル、数列に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。複素数平面、式と曲線に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ノート 観察 レポート	10%
b. 数学的な見方や考え方	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル、数列、複素数平面、式と曲線における数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
c. 数学的な技能	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ベクトル、数列において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 複素数平面、式と曲線において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 ベクトル、数列における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 複素数平面、式と曲線における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	52	数学Ⅱ 第1章 式と証明	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○	○	○	○
			第2章 複素数と方程式	・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○	○	○	○
			第3章 図形と方程式	・座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを2直線の位置関係などの考察に活用することができる。 ・座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用することができる。 ・図形を与えられた条件をみたす点の集合として考えることを通して、軌跡や領域について理解する。また、簡単な場合について軌跡を求めたり、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。さらに、領域の考え方は、証明や最大・最小問題の解決に有用であることを理解する。	○	○	○	○
			第4章 三角関数	・三角関数のグラフやその周期性を理解させるとともに、三角関数の性質や相互関係などについての理解を深め、それを活用できるようにする。	○	○	○	○
			第1回考査			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	
前期	7 8 9	53	第5章 指数関数・対数関数	<ul style="list-style-type: none"> 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができる。 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。また、対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができる。さらに、常用対数の理解を通じて、対数関数の有用性を認識する。 	○	○	○	○	
			数学B 第3章 数列	<ul style="list-style-type: none"> 等差数列と等比数列について理解し、その一般項を求め、更に第n項までの和を求めて、数列の身近な問題の解決に活用できる。 数列の和を記号Σを使って表すことを学び、この記号Σによって、いろいろな数列の和が計算できることを理解する。 階差数列が等差数列や等比数列となるような簡単な数列を考察し、具体的な事象を考察し処理できる。 数列を漸化式で表し、漸化式の意味を理解する。さらに、一次の形の隣接二項間の漸化式のような簡単な漸化式で表された数列について、その一般項が求められる。 数学的帰納法の意味とその扱い方を理解するとともに、考え方のよさを認識する。 	○	○	○	○	
				第2回考査			○	○	○
後期	10 11 12	53	第1章 平面上のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> 平面上のベクトルについて、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解し、活用できる。また、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を理解し、平面図形の性質の考察に応用する。 位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察において形式的な処理ができることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、平面図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できる。 	○	○	○	○	
			第2章 空間のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> 空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解するとともに、内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して、空間図形の考察に活用できる。 	○	○	○	○	
			数学II 第6章 微分法・積分法	<ul style="list-style-type: none"> 微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことができる。また、グラフの概形を利用して、方程式の解や不等式の証明など、微分の考えを事象の考察に活用することができる。 	○	○	○	○	
				第3回考査			○	○	○
			第6章 微分法・積分法	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることができる。また、定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。 	○	○	○	○	
1 2 3	52	数学III 第1章 複素数平面	<ul style="list-style-type: none"> 座標平面上の点に複素数を対応させることで複素数平面を導入する。ベクトルの和・差および実数倍との関連から複素数の和・差および実数倍を図示し、また、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の幾何学的意味を理解する。また、ド・モアブルの定理を使って二項方程式を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味を理解する。 平面図形を複素数の集合と見なして、複素数の平面図形の問題への応用ができる。 2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数での表記、点zのまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複素数の等式が表す図形などについて、解析幾何学との関連において、複素数平面上の図形を理解する。 	○	○	○	○		
		第2章 式と曲線	<ul style="list-style-type: none"> 曲線の媒介変数表示を理解する。直交座標と極座標の関係を理解し、直交座標で表された図形の方程式を極方程式で表すことができる。また、その逆のことができる。 	○	○	○	○		
			第4回考査			○	○	○	
【その他】 教科書の例題・練習・問や4STEPの問題を利用して、学習した内容を演習する習慣を身につけよう。授業の復習として4STEPで日常的に演習をし、チャートの問題は週末などに時間をかけて取り組み、確かな基礎力の上に応用力を身につけよう。数学の力をつけるためには、問題演習を繰り返すことが必要であり、良問との出会いが重要になります。意欲的に学習しましょう。									

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学Ⅱ 数学・数学B 数学・数学演習1	単位数	3+2+1
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅱでは図形の性質を方程式を用いて論理的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察する力を身に付ける。数学Bでは離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し、考察する力を身に付ける。
使用教科書・副教材等	教科書 数研出版 数学Ⅱ, 数研出版 数学B 副教材 数研出版 4STEP数学Ⅱ・B 数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ベクトル, 数列に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ノート 観察 レポート	10%
b. 数学的な見方や考え方	式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル, 数列, 関数と極限, 微分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
c. 数学的な技能	式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ベクトル, 数列において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 ベクトル, 数列における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	52	数学Ⅱ 第1章 式と証明	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○	○	○	○
			第2章 複素数と方程式	・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○	○	○	○
			第3章 図形と方程式	・座標を用いて、平面上の線分を内分する点, 外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを2直線の位置関係などの考察に活用することができる。 ・座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用することができる。 ・図形を与えられた条件をみたす点の集合として考えることを通して、軌跡や領域について理解する。また、簡単な場合について軌跡を求めたり、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。さらに、領域の考え方は、証明や最大・最小問題の解決に有用であることを理解する。	○	○	○	○
			第4章 三角関数	・三角関数のグラフやその周期性を理解させるとともに、三角関数の性質や相互関係などについての理解を深め、それを活用できるようにする。	○	○	○	○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	53	第5章 指数関数・対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ・指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができる。 ・対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。また、対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができる。さらに、常用対数の理解を通じて、対数関数の有用性を認識する。 	○	○	○	○
			数学B 第3章 数列	<ul style="list-style-type: none"> ・等差数列と等比数列について理解し、その一般項を求め、更に第n項までの和を求めて、数列の身近な問題の解決に活用できる。 ・数列の和を記号Σを使って表すことを学び、この記号Σによって、いろいろな数列の和が計算できることを理解する。 ・階差数列が等差数列や等比数列となるような簡単な数列を考察し、具体的な事象を考察し処理できる。 ・数列を漸化式で表し、漸化式の意味を理解する。さらに、一次の形の隣接二項間の漸化式のような簡単な漸化式で表された数列について、その一般項が求められる。 ・数学的帰納法の意味とその扱い方を理解するとともに、考え方のよさを認識する。 	○	○	○	○
				第2回考査			○	○
後期	10 11 12	53	第1章 平面上のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・平面上のベクトルについて、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解し、活用できる。また、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を理解し、平面図形の性質の考察に応用する。 ・位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察において形式的な処理ができることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、平面図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できる。 	○	○	○	○
			第2章 空間のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解するとともに、内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して、空間図形の考察に活用できる。 	○	○	○	○
			数学Ⅱ 第6章 微分法・積分法	<ul style="list-style-type: none"> ・微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 ・導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことができる。また、グラフの概形を利用して、方程式の解や不等式の証明など、微分の考えを事象の考察に活用することができる。 	○	○	○	○
				第3回考査			○	○
			第6章 微分法・積分法	<ul style="list-style-type: none"> ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることができる。また、定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。 	○	○	○	○
	1 2 3	52	発展学習	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した内容を発展的に取り扱う。 ・演習を通して、公式や基本事項の確認をするとともに問題解決の能力を伸ばす。 	○	○	○	○
				第4回考査		○	○	○

【その他】
教科書の例題・練習・問や4STEPの問題を利用して、学習した内容を演習する習慣を身につけよう。授業の復習として4STEPで日常的に演習をし、チャートの問題は週末などに時間をかけて取り組み、確かな基礎力の上に応用力を身につけよう。数学の力をつけるためには、問題演習を繰り返すことが必要であり、良問との出会いが重要になります。意欲的に学習しましょう。

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学Ⅱ 数学・数学B	単位数	3+2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年 普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅱでは図形の性質を方程式を用いて論理的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察する力を身に付ける。数学Bでは離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し、考察する力を身に付ける。
使用教科書・副教材等	教科書 数研出版 数学Ⅱ, 数研出版 数学B 副教材 数研出版 4STEP数学Ⅱ・B 数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	図形と方程式, 三角関数, 指数関数と対数関数, 微分・積分, ベクトル, 数列における考え方や体系に関心をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	ノート 観察 レポート	10%
b. 数学的な見方や考え方	図形と方程式, 三角関数, 指数関数と対数関数, 微分・積分, ベクトル, 数列において, 事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
c. 数学的な技能	図形と方程式, 三角関数, 指数関数と対数関数, 微分・積分, ベクトル, 数列において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	図形と方程式, 三角関数, 指数関数と対数関数, 微分・積分, ベクトル, 数列における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	50	数学Ⅱ 第1章 式と証明	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに, 等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○	○	○	○
			第2章 複素数と方程式	・方程式についての理解を深め, 数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○	○	○	○
			第3章 図形と方程式	・座標を用いて, 平面上の線分を内分する点, 外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。また, 座標平面上の直線を方程式で表し, それを2直線の位置関係などの考察に活用することができる。 ・座標平面上の円を方程式で表し, それを円と直線の位置関係などの考察に活用することができる。 ・図形を与えられた条件をみたす点の集合として考えることを通して, 軌跡や領域について理解する。また, 簡単な場合について軌跡を求めたり, 不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。さらに, 領域の考え方は, 証明や最大・最小問題の解決に有用であることを理解する。	○	○	○	○
			第1回考査			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	40	第4章 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> 角の範囲を一般角まで拡張し、さらに度数法とは異なる弧度法を扱う。弧度法を用いて扇形の面積や周の長さを求める活動などを通して、弧度法に関する理解を深める。 三角関数のグラフを描くことなどにより、三角関数の周期性を理解することができる。 加法定理やそこから導き出される2倍角の定理などを活用することができる。 	○	○	○	○
			第5章 指数関数と対数関数	<ul style="list-style-type: none"> 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができる。 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。また、対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができる。さらに、常用対数の理解を通じて、対数関数の有用性を認識する。 	○	○	○	○
				第2回考査			○	○
後期	10 11 12	40	数学B 第3章 数列	<ul style="list-style-type: none"> 等差数列と等比数列について理解し、その一般項を求め、更に第n項までの和を求めて、数列の身近な問題の解決に活用できる。 数列の和を記号Σを使って表すことを学び、この記号Σによって、いろいろな数列の和が計算できることを理解する。 	○	○	○	○
			第1章 平面上のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> 平面上のベクトルについて、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解し、活用できる。また、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を理解し、平面図形の性質の考察に応用する。 位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察において形式的な処理ができることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、平面図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できる。 	○	○	○	○
			第2章 空間のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> 空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解するとともに、内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して、空間図形の考察に活用できる。 	○	○	○	○
				第3回考査			○	○
1 2 3	45	数学Ⅱ 第6章 微分法	<ul style="list-style-type: none"> 微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことができる。また、グラフの概形を利用して、方程式の解や不等式の証明など、微分の考えを事象の考察に活用することができる。 	○	○	○	○	
		数学Ⅱ 第6章 積分法	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることができる。また、定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。 	○	○	○	○	
			第4回考査			○	○	○
【その他】 教科書の例題・練習・問や4STEPの問題を利用して、学習した内容を演習する習慣を身につけよう。授業の復習として4STEPで日常的に演習をし、チャートの問題は週末などに時間をかけて取り組み、確かな基礎力の上に応用力を身につけよう。数学の力をつけるためには、問題演習を繰り返すことが必要であり、良問との出会いが重要になります。意欲的に学習しましょう。								

年間指導計画表

教科・科目	物理基礎	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(理型生物選択者) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を求め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書 数研出版「改訂版 物理基礎」 傍用問題集 「リードLightノート物理基礎」

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	ノート 観察レポート	10
b. 思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査	40
c. 観察・実験の技能	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	観察レポート	10
d. 知識・理解	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査	40

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	速度・加速度	変位・速度・加速度の概念を理解し、グラフや式を使って運動を分析できるようになる。等速度運動・等加速度運動を理解する。 速度・加速度の発展として、鉛直方向の落下運動について理解する。 物体が受けている力を発見し、力のつり合いの式や運動方程式を解くことができるようになる。 密度・水圧の定義から液体中で物体にはたらく浮力を計算できるようになる。 第1回考査	○		○	
			重力による運動		○		○	
			運動の3法則・運動方程式		○		○	
			水圧・浮力		○		○	
					○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	仕事 力学的エネルギー 熱量 不可逆変化と熱機関	力学的な仕事・仕事率・エネルギーについて理解する。 力学的エネルギーの法則とその適用条件について、仕事と関連づけて理解する。 ミクロな立場から物質の三態変化について理解する。比熱・熱容量を用いた熱量計算ができるようになる。 仕事と熱の変換、内部エネルギー、熱力学第1法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解する。 第2回考査	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	
後期	10 11 12	18	波の基本的性質 音波・ドップラー効果 静電気・直流回路 電磁力と電磁誘導・交流	波の要素を定量的に扱えるようになる。波の反射・屈折・2つの波の干渉条件について理解する。 弦定常波・気柱共鳴を通して音波の干渉・共振を理解する。ドップラー効果の原理を学び、波長・振動数を求めることができるようになる。 オームの法則、電流計・電圧計の原理や、電池の内部抵抗などについて理解する。 磁場、電磁力について理解する。誘導起電力の向きをレンツの法則で理解する。交流発生を原理を理解する。 第3回考査	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	
			1 2 3	17	電磁波 エネルギーとその利用 物理学が拓く世界 まとめ	光を含めたさまざまな電磁波が現代の生活に活かされていることを理解する。 原子力の利用とそれに伴うリスクについて具体的な事例に触れながら理解を深める。 放射線の種類と特性、人体や環境への影響について理解する。 1年間のまとめを行う。 第4回考査	○ ○ ○ ○	
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	物理基礎・物理	単位数	5(2+3)
		学科・学年・学級	普通科普通(理型物理選択者) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理の運動と様々なエネルギーに関わり、見通しをもって観察・実験などを行うことを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。
使用教科書・副教材等	教科書 数研出版「改訂版 物理基礎」「改訂版 物理」 傍用問題集 「リードα 物理基礎・物理」 問題集 物理のエッセンス 力学・波動 熱・電磁気・原子

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	物理学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	ノート 実験レポート	10
b. 思考・判断・表現	物理学的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査	40
c. 観察・実験の技能	物理学的な事物・現象に関する観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	実験レポート	10
d. 知識・理解	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。	定期考査	40

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	44	速度・加速度	変位・速度・加速度の概念を理解し、グラフや式を使って運動を分析できるようになる。等速度運動・等加速度運動を理解する。 速度・加速度の発展として、鉛直方向の落下運動・水平投射・斜方投射について理解する。 物体が受けている力を発見し、力のつり合いの式や運動方程式を解くことができるようになる。 波の要素を定量的に扱えるようになる。波の反射・屈折・回折・干渉について理解する。 第1回考査	○		○	
			重力による運動		○		○	
			運動の3法則・運動方程式		○		○	
			波の基本的性質		○		○	
					○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	44	剛体の力学	力のモーメントのつり合い・物体の重心・剛体が静止する条件について理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			水圧・浮力	密度・水圧の定義から液体中で物体にはたらく浮力を計算できるようになる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			仕事・力学的エネルギー・熱	仕事・仕事率・力学的エネルギー保存法則とその適用条件・熱エネルギーについて理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			音波・ドップラー効果	音波の干渉・共振などを弦定常波・気柱共鳴の実験を通して理解する。ドップラー効果の原理を理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
				第2回考査		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	10 11 12	44	力積と運動量	運動量と力積の関係から、運動量保存法則を導けるようになり、物体系に内力がはたらく現象について理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			等速円運動	等速円運動する物体の速度・角速度・加速度・向心力について理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			慣性力・遠心力	観測者が加速度系にあるとき、物体の運動や静止状態を慣性力や遠心力で理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			光の性質・進み方	反射・散乱・偏光・屈折の現象を理解する。臨界角・全反射について理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			レンズ	凸レンズ・凹レンズの基本的な性質と応用について理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			光の干渉	ヤングの実験・回折格子・薄膜干渉・くさび状空気層・ニュートンリングの干渉条件について理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
				第3回考査		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
後期	1 2 3	43	万有引力	ケプラーの法則と運動方程式から万有引力の法則を導きだせるようになる。万有引力を受けて運動する物体の力学的エネルギーが保存されること、およびこのことを用いて第二宇宙速度を導出できるようになる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			単振動・波の方程式	単振動する物体の変位・速度・加速度・周期・振動数・復元力について理解する。応用として波の方程式を導けるようになる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			ボイル・シャルルの法則	気体の圧力・体積・温度の間の関係を、学び、理想気体の状態方程式を導けるようになる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			熱力学第1法則・分子運動論・熱機関	内部エネルギー・仕事・熱の関係を理解する。分子運動の視点から圧力・運動エネルギー・内部エネルギーを理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
			電気と磁気・エネルギー	オームの法則や電気抵抗の直列接続、並列接続について理解する。電力・電力量やジュールの法則について理解する。直流と交流の違いを理解する。エネルギーの変換やエネルギー保存の法則について理解する。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
				第4回考査		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・化学	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書: 第一学習社「改訂 化学」 副教材: 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」 実教出版「四訂版 サイエンスビュー化学総合資料」

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	ノート、観察、小テスト	10%
b. 思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	レポート、定期考査	30%
c. 観察・実験の技能	化学的な事物・事象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験、レポート、定期考査	30%
d. 知識・理解	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	小テスト、定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	26	酸化還元の復習	1学年からの学習の流れを鑑みて、電池・電気分解の理解を深める。		○		○
			第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第2節 電池・電気分解	・酸化還元反応の内容を復習し、電池の原理とおもな電池の構成を学習する。次に、電気分解の原理と応用を学習し、電池・電気分解における量的関係を理解する。	○		○	
			第Ⅰ章 物質の状態 第2節 物質の三態変化 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 物質とエネルギー	・物質の状態変化とそれに伴う熱の出入りを学習する。 ・熱化学方程式とヘスの法則を学習し、量的関係を理解する。	○		○	
			第1回考査			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	27	第I章 物質の状態 第3節 気体の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式を学習する。 ・混合気体における全圧と分圧の関係を学習する。 ・飽和蒸気圧との関連を学び、応用的な量的関係を理解する。 		○		○
			第I章 物質の状態 第1節 化学結合と結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・理想気体と実在の気体との違いを理解する。 ・化学結合と結晶の性質について復習する。 ・金属結晶、イオン結晶、共有結合の結晶の構造を学習する。 ・アモルファスについて学習する。 	○ ○			○
後期	10 11 12	26	第4節 溶液の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・固体や気体の溶解のしくみを理解し、それぞれの溶解度について学習する。 ・溶液の濃度と沸点上昇、凝固点降下、浸透圧などの各現象について学び、量的関係を理解する。 ・コロイドを理解し、その溶液の性質を学習する。 		○		
			第II章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ的な視点で、反応のしくみを学習する。 ・濃度条件、圧力条件、温度条件と反応の速さの関係を学習する。 ・活性化エネルギーと触媒の働きを学習する。 	○ ○		○	
	1 2 3	26	第4節 化学平衡	<ul style="list-style-type: none"> ・可逆反応と化学平衡の状態を理解する。 ・平衡移動の原理を理解し、その工業的応用例としてハーバー法(アンモニアの製造法)について考察する。 ・平衡定数について学習する。そのうえで酸や塩基、塩の水溶液のpHを理解し、理論的な計算ができるようになる。 	○	○		
			第III章 無機物質 第1節 非金属元素の 単体とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・非金属元素として、水素、ハロゲン、酸素、硫黄、窒素、リン、炭素、ケイ素などの単体や化合物について、それらの性質や用途、製造法を学習する。 	○		○	○
【その他】						○	○	○

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物基礎	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書：「改訂版 生物基礎」(数研出版) 副教材：「三訂版 フォトサイエンス生物図録」(数研出版) 「四訂版 リードLightノート 生物基礎」(数研出版) 「五訂版 リードα 生物基礎」(数研出版) 「リードα 生物基礎 完成ノート」(数研出版)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	ノート、観察、レポート	20%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	レポート、ワークシート、定期考査	20%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート、観察、定期考査	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	レポート、ワークシート、定期考査	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	17	第1章 生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解させる。生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。 酵素のはたらきの学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 第1回考査	○	○	○	○
	5		1. 生物の多様性と共通性		○	○	○	○
	6		2. エネルギーと代謝		○	○	○	○
	7	18	第2章 遺伝子とのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報を担う物質であるDNAについて、その構造、および遺伝情報は塩基配列にあることを理解させる。 転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。 遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。 第2回考査	○	○	○	○
	8		1. 遺伝情報とDNA		○	○	○	○
	9		2. 遺伝情報の発現		○	○	○	○
			3. 遺伝情報の分配	○	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d				
後期	10	17	第3章 生物の体内環境	動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境(体内環境)である。体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがかはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。私たち自身のからだにかかわる内容について、できるだけ身近な話題を取り上げながら理解させる。	○	○		○				
	11		第4章 植生の多様性と分布						・植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて学習する。	○	○	
				第3回考査		○	○	○				
	12	18	3. 気候とバイオーム	・地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームを取り上げて学習する。	○	○		○				
	1		第5章 生態系とその保全	・生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。	○	○		○				
	2		1. 生態系									
	2		2. 物質循環とエネルギーの流れ						・生態系はそのバランスが保たれていること、人間の活動が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解させる。	○	○	
	3	3. 生態系のバランス	第4回考査							○	○	○
			4. 人間活動と生態系の保全									
【その他】 授業を大切に、そこで学ぶことを一つ一つ着実に理解していくことが大切である。単に知識として理解するだけではなく、それぞれの事象に対して「なぜ」という疑問をもってもらいたい。また、学習したことを活用して、そうした疑問に対する答えとなるような考えを導けるようになってほしい。												

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通(理型生物選択者) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書：「改訂版 生物」(数研出版) 副教材：「三訂版 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版) 「六訂版 リードα 生物基礎+生物」(数研出版)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	生物や生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	ノート、観察、レポート	10%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	レポート、観察、定期考査	30%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート、観察、定期考査	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	レポート、定期考査	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	26	第1章 細胞と分子					
			1. 生体を構成する物質	・細胞を構成する物質について学習する。	○	○		○
			2. タンパク質の構造と性質	・タンパク質については、基本的な構造を学習したうえで、酵素など、その立体構造と生命活動において果たすはたらきとの関連を理解させる。	○	○	○	○
	5		3. 酵素のはたらき					
			4. 細胞の構造	・細胞小器官や細胞骨格、生体膜など、細胞の内部構造について学習する。	○	○	○	○
	6		5. 物質輸送とタンパク質	・物質輸送や情報伝達・認識にかかわるタンパク質について学習する。これらの学習を通じて、細胞活動においてさまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解させる。	○	○	○	○
		6. 情報伝達・認識とタンパク質						
			第1回考査		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	26	第2章 代謝					
			1. 代謝とエネルギー	・「生物基礎」で概要を学習した呼吸・光合成について、その詳細なしくみを理解させる。	○	○		○
	8		2. 呼吸と発酵	・呼吸においては、各過程の反応を学習し、その際、有機物が分解され、ATPが合成されることを理解させる。	○	○	○	○
			3. 光合成	・光合成においては、各過程の反応を学習し、その際、光エネルギーが化学エネルギーに変換されることを理解させる。	○	○	○	○
	9		4. 窒素同化	・窒素同化の概要について理解させる。	○	○		○
				第2回考査		○	○	○
後期	10	27	第3章 遺伝情報の発現					
			1. DNAの構造と複製	・「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解させる。その際、遺伝情報の変化についても学習する。	○	○	○	○
	11		2. 遺伝情報の発現					
			3. 遺伝子の発現調節	・遺伝子の発現調節の概要を、転写レベルの調節を中心に学習する。	○	○		○
	12		4. バイオテクノロジー	・遺伝子を扱ったバイオテクノロジーについて学習し、その原理と有用性を理解させる。	○	○	○	○
				第3回考査		○	○	○
後期		26	第4章 生殖と発生					
	1		1. 遺伝子と染色体	・染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解させる。	○	○		○
			2. 減数分裂と遺伝情報の分配					
			3. 遺伝子の多様な組み合わせ					
	2		4. 動物の配偶子形成と受精	・動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を学習する。	○	○	○	○
			5. 初期発生の過程					
			6. 細胞の分化と形態形成	・細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象を中心に理解させる。前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。	○	○		○
	3		7. 植物の配偶子形成と発生	・植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解させる。	○	○		○
				第4回考査		○	○	○
【その他】 授業を大切に、そこで学ぶことを一つ一つしっかり理解していくことが大切である。単なる知識の理解だけではなく、1つ1つの事象に対して「なぜ」という疑問を持ってほしい。また、学習したことを活用してその疑問に対する答えを見出し、言葉で表現できるようになることが望ましい。								

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物演習 A	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>1. 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。</p> <p>2. 生物の多様性の中から法則を導き、その法則に基づきながら共通性を見いだしていく。</p> <p>3. 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。</p> <p>4. 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。</p>
使用教科書・副教材等	<p>教科書：「改訂版 生物基礎」(数研出版)</p> <p>副教材：「三訂版 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版)</p> <p>「五訂版 リードα生物基礎」(数研出版)</p> <p>「進研WINSTEP 生物基礎」(ラーンズ)</p>

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、ノート、レポート	10%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察レポート、定期考査、ワークシート	30%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	観察、ノート、定期考査、実験レポート	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査、ワークシート、課題ノート	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	17	第1章 生物と遺伝子	<p>・一年次に学習した「生物基礎」の基本的な事項を再確認し、知識の定着をはかる。</p> <p>・「生物と遺伝子」に関する事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、的確に表現する力を養う。</p> <p>・生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得させるとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付ける。</p>				
			1. ミクロメーターを用いた測定		○			○
	2. DNAの構造				○			
	5		3. 転写・翻訳		○		○	
	6		4. 体細胞分裂とDNA量の変化					
	5. 原核細胞と真核細胞							
	6. 代謝1(酵素・ATP)							
7. 代謝2(光合成・呼吸)								
			第1回考査		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	18	第2章 生物の体内環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次に学習した「生物基礎」の基本的な事項を再確認し、知識の定着をはかる。 ・「生物の体内環境の維持」に関する事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、的確に表現する力を養う。 ・生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得させるとともに、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付ける。 	○	○	○	○
	8		8. 体液の循環(心臓・血管) 9. 体液と酸素解離曲線 10. 腎臓と肝臓のはたらき 11. 体内環境の維持1(血糖濃度の調節) 12. 体内環境の維持2(体温の調節) 13. フィードバック 14. 免疫1(免疫のしくみ) 15. 免疫2(免疫と疾患)					
後期	10	17	第3章 生物の多様性と生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次に学習した「生物基礎」の基本的な事項を再確認し、知識の定着をはかる。 ・「生物の多様性と生態系」に関する事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、的確に表現する力を養う。 ・生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得させるとともに、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付ける。 	○	○	○	○
	11		16. 光の強さと光合成の関係 17. 遷移のしくみ 18. バイオーム1(世界のバイオーム) 19. バイオーム2(日本のバイオーム) 20. 生態系のバランス 21. 窒素の循環 22. 生態系の保全					
	12	18	第4章 総合問題	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのテーマに基づいて、「生物基礎」に含まれるさまざまな事項の関連性を確認し、総合的な知識の定着をはかる。 ・「生物基礎」に関する事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、的確に表現する力を養う。 ・総合問題に取り組むことで、「生物基礎」に関する知識の定着度を確認する。 	○	○	○	○
	1		23. 遺伝情報にしたがったタンパク質の合成 24. ウイルスの遺伝物質の特定 25. すい液が分泌されるしくみの考察 26. 暖かさの指数 27. 水質浄化					
	3		問題演習	第4回考査		○	○	○
【その他】 授業を大切に、そこで学ぶことを一つ一つ着実に理解していくことが大切である。単に知識として理解するだけでなく、それぞれの事象に対して「なぜ」という疑問をもってもらいたい。また、学習したことを活用して、そうした疑問に対する答えとなるような考えを導けるようになってほしい。								

年間指導計画表

教科・科目	地学基礎	単位数	2単位
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年 普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察や実験を通して地学的に探究する能力と態度を養う。地学の基本的な概念などを理解し、科学的な思考力を養う。
使用教科書・副教材等	教科書: 地学基礎改訂版(啓林館) 副教材: センサー地学基礎改訂版(啓林館) 十訂版スクエア地学(第一学習社)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	地学的な事物・現象に興味や関心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	授業内成果物	20%
b. 思考・判断・表現	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 授業内成果物	40%
c. 観察・実験の技能	地学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	定期考査 授業内成果物	10%
d. 知識・理解	地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。	定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	自然との共生	地球と人類が現在置かれている状況を把握し、地学を学ぶ意義、目的を明確にする。	○	○	○	
			地球の概観と内部構造	地球の形と大きさと内部構造について探究する。	○	○	○	
			プレートテクトニクス	プレートの分布と運動の様子から大地形の形成を探究する。	○	○	○	
			地震	地震発生の仕組みを地球内部のエネルギーやプレート運動と関連づけて探究する。	○	○	○	
			火山活動	火山の分布や火山活動の特徴を、プレート運動やホットスポットの理論に関連づけて探究する。	○	○	○	
			火成岩	火成岩の色調の違いが、鉱物組成や化学組成や密度と関連することを探究する。	○	○	○	
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	堆積岩	露頭の観察から地層の形成過程を探究する。鉱物粒子の形や大きさの違いから地層の成因を推定する力を養う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			地層と地質構造	不整合や褶曲や断層などの地質構造が過去の地殻変動を推定するうえで、有効な手段であることを調べる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			地球の歴史	古生物の変遷から地質時代が区分され、地球環境がどのように移り変わってきたかを探究する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				第2回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
後期	10 11 12	17	大気の構造	気圧や気温の鉛直方向の変化を調べ、オゾン層やオーロラなど大気中でみられる現象の仕組みについて探究する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			太陽放射	地球全体として太陽放射量と地球放射量が釣り合っていることを探究するとともに、温室効果の仕組みを調べる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			大気・海水の運動	偏西風や黒潮やコンベアベルトなどを調べ、大気の大循環や海水の運動によって熱が輸送されていることを探究する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			日本の天気	日本の季節の気象現象を調べる。地球温暖化やエルニーニョ現象をデータに基づいて人間生活と関連づけて探究する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				第3回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
後期	1 2 3	18	太陽系と太陽	地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す環境をもつ惑星となった過程を探究する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			太陽と恒星	太陽の表面やスペクトル観察などを通して、太陽活動について探究する。また、恒星としての太陽の進化を調べる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			太陽のスペクトルについて	太陽表面やスペクトル観察を通して、太陽活動について探究する。また、恒星としての太陽のすがたと進化を調べる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			恒星の一生について	太陽のエネルギー源が核融合反応であることを調べ、恒星の誕生から末期までの進化の過程について探究する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			宇宙のすがた	宇宙がビッグバンから誕生し、膨張していることを調べる。銀河系や銀河群、銀河団及び宇宙の大規模構造を調べる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				第4回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【その他】 ①本授業は受けるものではなく、参加者全員で創る授業です。主体性をもって参加しましょう。 ②問いを立てることはABLEだけではなく、地学(科学)ともつながります。常に自分の中に問いを立てましょう。 ③言葉を暗記するのではなく、常に現象や背景のつながり、仕組みを考えることで、論理的・科学的思考力を鍛えましょう。								

年間指導計画表

教科・科目	体育	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科 普通・国際コミュニケーションコース 第2学年 男子

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
使用教科書・副教材等	本校体育実技記録ノート 競技ルールのプリント 参考資料 保健体育教科書(体育分野)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	観察	10%
b. 思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指した、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	実技ノート 観察	10%
c. 技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	実技テスト	70%
d. 知識・理解	選択して運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的な特性や現代スポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	実技ノート レポート	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	18	体育理論	「スポーツの技術と戦術」「技能の上達過程と練習」「効果的な動きのメカニズム」について学習する。	○	○		○
			体づくり運動	トレーニングについて正しく理解し、基礎的な体力を向上させる。	○	○	○	○
			選択種目 武道(柔道)	技を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、相手の多様な動きに応じた技や連絡技などを用いて攻防を展開できるようにする。	○	○	○	○
			選択種目 マット	技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	体づくり運動	トレーニングについて正しく理解し、基礎的な体力を向上させる。	○	○	○	○
			体づくり運動(縄跳び)	多種多様な縄跳びの技を行うことによって、柔軟性・持久力・筋力・調整力等を高める。	○	○	○	○
			体育理論	「技能と体力」「体カトレーニング」「運動やスポーツでの安全確保」について学習する。	○	○		○
後期	10 11 12	18	選択種目 バドミントン(男)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ストローク・サービスなどのシャトル操作やダブルスにおける連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする。	○	○	○	○
			選択種目 ハンドボール(男女)	状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作やポストプレイなどのチームメイトと連携した動きを高め、ゲームを展開できるようにする。	○	○	○	○
			長距離走	記録の向上や競争の喜びや楽しさを味わい、長距離走特有の持久力や体力を高める。	○	○	○	○
			体づくり運動(縄跳び)	多種多様な縄跳びの技を行うことによって、柔軟性・持久力・筋力・調整力等を高める。	○	○	○	○
		1 2 3	16	長距離走	記録の向上や競争の喜びや楽しさを味わい、長距離走特有の持久力や体力を高める。	○	○	○
			体づくり運動(縄跳び)	多種多様な縄跳びの技を行うことによって、柔軟性・持久力・筋力・調整力等を高める。	○	○	○	○
【年間の学習状況の評価方法】 1. 授業への取り組み＝生徒各個人の態度や取り組む姿勢を観察する。 2. 学習ノート・プリント＝実技ノートへの記録の整理やプリントを用いた学習に取り組ませる。 3. テスト＝スキルテストや小テストなどを各単元(種目)で実施する。								

年間指導計画表

教科・科目	体育	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科 普通・国際コミュニケーションコース 第2学年 女子

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
使用教科書・副教材等	本校体育実技記録ノート 競技ルールのプリント 参考資料 保健体育教科書(体育分野)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	観察	10%
b. 思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指した、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	実技ノート 観察	10%
c. 技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	実技テスト	70%
d. 知識・理解	選択して運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的な特性や現代スポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	実技ノート レポート	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	18	体育理論	「スポーツの技術と戦術」「技能の上達過程と練習」「効果的な動きのメカニズム」について学習する。	○	○		○
			体づくり運動	トレーニングについて正しく理解し、基礎的な体力を向上させる。	○	○	○	○
			選択種目 創作ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて、発表ができるようにする。	○	○	○	○
			選択種目 マット	技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	創作ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて、発表ができるようにする。	○	○	○	○
			体づくり運動	トレーニングについて正しく理解し、基礎的な体力を向上させる。	○	○	○	○
			体育理論	「技能と体力」「体カトレーニング」「運動やスポーツでの安全確保」について学習する。	○	○		○
後期	10 11 12	18	選択種目 ハンドボール(女)	状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作やポストプレイなどのチームメイトと連携した動きを高め、ゲームを展開できるようにする。	○	○	○	○
			選択種目 ソフトボール(女)	「打つ」「捕る」「投げる」「走る」という基本動作を複雑に行うことで、巧緻性・敏捷性・筋力・瞬発力を高める。集団としての連帯感や協力して取り組む姿勢を育てる。	○	○	○	○
			選択種目 マット(男女)	技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。	○	○	○	○
			長距離走	記録の向上や競争の喜びや楽しさを味わい、長距離走特有の持久力や体力を高める。	○	○	○	○
			体づくり運動(縄跳び)	多種多様な縄跳びの技を行うことによって、柔軟性・持久力・筋力・調整力等を高める。	○	○	○	○
	1 2 3	16	長距離走	記録の向上や競争の喜びや楽しさを味わい、長距離走特有の持久力や体力を高める。	○	○	○	○
体づくり運動(縄跳び)			多種多様な縄跳びの技を行うことによって、柔軟性・持久力・筋力・調整力等を高める。	○	○	○	○	

【年間の学習状況の評価方法】

1. 授業への取り組み＝生徒各個人の態度や取り組む姿勢を観察する。
2. 学習ノート・プリント＝実技ノートへの記録の整理やプリントを用いた学習に取り組ませる。
3. テスト＝スキルテストや小テストなどを各単元(種目)で実施する。

年間指導計画表

教科・科目	保健	単位数	1
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第2学年 普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
使用教科書・副教材等	現代高等保健体育・現代高等保健体育ノート改訂版(大修館書店)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	1年次に学習した「現代社会と健康」と関連付け、さらに「生涯を通じる健康」、「社会生活と健康」について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	ノート 観察	15%
b. 思考・判断・表現	1年次に学習した「現代社会と健康」と関連付け、さらに「生涯を通じる健康」、「社会生活と健康」について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現することができる。	ノート 観察	
c. 技能	/	/	/
d. 知識・理解	1年次に学習した「現代社会と健康」と関連付け、さらに「生涯を通じる健康」、「社会生活と健康」について、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	定期考査	85%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	9	思春期と健康	思春期における心身の変化、および健康課題について理解し、説明することができる。	○	○		○
			性意識と性行動の選択	性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて理解し、説明することができる。	○	○		○
			結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について説明することができる。	○	○		○
			妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解し、説明することができる。	○	○		○
			家族計画と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について理解し、説明することができる。	○	○		○
				第1回考査				

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	8	加齢と健康	加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための個人でできる取り組みについて理解し、説明することができる。	○	○		○
			高齢者のための社会的取り組み	高齢者の健康課題とその社会的な支援、すべての人が健康で安全に暮らすための社会的取り組みについて理解し、説明することができる。	○	○		○
			保健制度とその活用	保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について理解し、説明することができる。	○	○		○
			医療制度とその活用	医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について理解し、説明することができる。	○	○		○
			医薬品と健康	医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の安全性を守る取り組みについて理解し、説明することができる。	○	○		○
				第2回考査				
後期	10 11 12	9	さまざまな保健活動や対策	健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動について理解し、説明することができる。	○	○		○
			大気汚染と健康	大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について理解し、説明することができる。	○	○		○
			水質汚濁、土壌汚染と健康	水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて理解し、説明することができる。	○	○		○
			健康被害の防止と環境対策	環境汚染を防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について理解し、説明することができる。	○	○		○
			環境衛生活動のしくみと働き	ごみ処理の現状とその課題、上下水道の整備とし尿の処理について理解し、説明することができる。	○	○		○
					第3回考査			
	1 2 3	8	食品衛生活動のしくみと働き	食品の安全性について理解し、行政、生産・製造者による衛生管理について説明することができる。	○	○		○
			食品と環境の保健と私たち	食品表示、食品の安全性の情報、食中毒の防止対策、環境の保健について理解し、説明することができる。	○	○		○
			働くことと健康	働くことの意義や健康とのかかわり、働き方と健康問題の変化について理解し、説明することができる。	○	○		○
			労働災害と健康	労働災害および、労働災害を防ぐための安全管理と健康管理のしくみについて理解し、説明することができる。	○	○		○
健康的な職業生活			職場がおこなう健康増進対策、余暇の意義と活用のしかたについて理解し、説明することができる。	○	○		○	
				第4回考査				
【年間の学習状況の評価方法】 1. 授業への取り組み＝生徒各個人の態度や取り組む姿勢を観察する。 2. 学習ノート・プリント＝保健ノートの活用やプリントを用いた学習に取り組ませ、評価する。 3. テスト＝定期考査。								

年間指導計画表

教科・科目	芸術・音楽Ⅱ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型音楽選択者) 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	高校生の音楽 2 教育芸術社 単元に応じてワークシートを配付

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a 音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	観察 ワークシート	10%
b 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	観察 ワークシート	20%
c 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。	実技テスト	60%
d 鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	観察 ワークシート	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	18	Tomorrow	イメージをもって豊かな声で歌う。	○	○	○	
			何度でも		○	○	○	
			うつろの心	言葉の美しい響きを拍の流れにのせて歌う。	○	○	○	
			子守歌	歌詞の内容とフレーズの関係に注意して歌う。	○	○	○	
			アヴィニオン橋の上で	言葉の雰囲気を感じ取って歌う。	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	情熱大陸	リズムの特徴を感じながら楽器の音色を工夫して演奏する。	○	○	○	
			交響曲内第9番	管弦楽と声楽が織りなす壮大は響きを感じ取る。	○			○
			威風堂々第1番	全体の構成を理解して鑑賞する。	○			○
			創作	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくる。	○	○	○	
後期	10 11 12	16	早春賦	曲想に応じた発声の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して歌う。	○	○	○	
			長唄「越後獅子」	我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深める。	○	○	○	○
			西洋音楽史	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴について理解を深める。	○			○
	1 2 3	18	ロンド	楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏する。	○	○	○	○
			楽典	基礎的な理論を理解する。	○	○		○
			課題研究	楽曲についてアナリゼができるようにし演奏に生かす。	○	○	○	○
【その他】 進路で音楽が必要な可能性がある人は必ず履修してください。 音楽関係の大学に進学を考えている人、入試に音楽の実技がある人は早めに教科担当者に相談してください。								

年間指導計画表

教科・科目	芸術・美術Ⅱ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・普通文型2年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊にし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化について理解を深める。
使用教科書・副教材等	高校生の美術2(日本文教出版)・自主教材

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	観察 ワークシート 発表	40%
b. 美術表現の構想と工夫	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成し、創造的な表現を練っている。	観察 ワークシート 作品	20%
c. 創造的な美術表現の技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫、創造的に表している。	作品	30%
d. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わっている。	観察 ワークシート 発表	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	2	オリエンテーション	美術Ⅱの学習内容を理解する。	○			
		4	素描1	鉛筆や木炭を使って線や明暗の表現を工夫する。	○		○	
		6	素描2	複数のモチーフを観察し、線や明暗の表現を工夫する。	○		○	
		6	平面構成	色彩構成を通して、バランスや色の効果を工夫する。	○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	6	立体構成	様々な材料を使って立体表現を工夫する。	○	○	○	
		6	素描3	様々なモチーフを観察し、線や明暗の表現を工夫する。	○	○	○	
		2	作品鑑賞	作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を理解する。	○			○
後期	10 11 12	8	平面構成	色彩構成を通して、構図や色の効果を工夫する。	○	○	○	
		8	平面構成	色彩構成を通して、主題表現や技法を工夫する。	○	○	○	
		2	絵画表現	制作意図に応じて構図や彩色による空間表現を工夫する。	○	○	○	○
	1 2 3	16	絵画表現	作品の質を高める工夫をする。	○	○	○	○
2		作品鑑賞	制作した作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を理解する。	○			○	
【その他】 最も基本的な表現活動である挨拶を大切にしてください。そして、自主的に美術館や画廊に出かけたり、身の回りのデザインに注目しましょう。また、美術系進学志望の人は、美術部を活用したり、美術担当教諭に相談してください。								

年間指導計画表

教科・科目	外国語・コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	ことばと人間との関係やことばと社会との関係など幅広くことばへの関心を高め、思考力、表現力の育成を促し、豊かな言語観を育てる。また、ことば、文化、民族の多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成と図る。英語の学習を通して、自ら考え、判断し、表現できる力を培う。
使用教科書・副教材等	『Element English Communication Ⅱ』(啓林館) 『Element WorkBook Standard』(啓林館) 『必携英単語LEAP』(数研出版) <1年次からの継続> 『CNN Workbook Extended Course 2020』(朝日出版社) <1年次からの継続> 『Listening Coach』(いいずな書店) 『SKYWARD Ocean course』(桐原書店) 『SKYWARD Clouds course』(桐原書店) 『TACTICS 10』(桐原書店)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業内での活動、課題の取り組み状況、小テストを得点化し、総合的に評価する。	25%
b. 外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査、小テストを得点化し、総合的に評価する。	25%
c. 外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査、小テストを得点化し、総合的に評価する。	25%
d. 言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査、小テストを得点化し、総合的に評価する。	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	3 5	Lesson 1	非音声的言語とは何かを理解し、その種類を理解するとともに、文化によって異なる非音声的言語について書く。	○	○	○	○
			Lesson 2	スティーブ・ジョブズが大学をやめたり、会社を解雇されたり、病気になったりして得た教訓を理解するとともに、かの有名なスピーチから感銘を受けた部分をレシテーションする。	○	○	○	○
			Lesson 3	ジャックが研究を始めた経緯、研究におけるジャックの苦労、およびジャックが成功した理由について理解するとともに世界を変えるために何ができるかについて書く。	○	○	○	○
			CNN 1,2,3,4,5 Listening Coach 1,2,3,4,5	ナチュラルスピードでの音読、聴き取りができることを目指す。 ニュースで扱われた題材についての関心をもつ。	○	○	○	○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	Lesson 4	イレーナがユダヤ人のために行ったこと、イレーナが警察につかまってから解放されるまでの経緯、およびイレーナの後悔について理解するとともに自分がイレーナの立場だったらどうするかについて書く。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Further Reading 1	川渡しをしている男が出会った難問、男がどのようにして難問を解いたか、難問を解く仕組みについて、およびなぜ誤った思考に陥るのかについて理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 5	宇宙ごみとは何か、宇宙ごみが引き起こす問題、宇宙ごみ問題の解決のために行われている取り組みについて理解するとともに宇宙探査に資金を費やすべきかについて議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			CNN 6,7,8,9,10 Listening Coach 6,7,8,9,10	ナチュラルスピードでの音読、聴き取りができることを目指す。 ニュースで扱われた題材についての関心をもつ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				第2回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	10 11 12	35	Lesson 6	ブルースとワトソンの関係がどのようなものだったか、彼らの別離と再会、ブルースの病気と、病気に対してどのように立ち向かったか、全米オープンでの2人の様子について理解するとともに、日米での好きなスポーツの違いについて議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 7	山中博士がiPS細胞の研究を始めた経緯、iPS細胞でどのような問題が解決するか、激化する再生医療分野での競争について理解するとともに有名な日本人研究者について意見を交換する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 8	犬と人間とのかかわり、犬の品種改良の利点や欠点について理解するとともに、品種改良の是非について議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			CNN 11,12,13,14,15 Listening Coach 11,12,13,14,15	ナチュラルスピードでの音読、聴き取りができることを目指す。 ニュースで扱われた題材についての関心をもつ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				第3回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
後期	1 2 3	35	Lesson 9	朝日が結成された当時の日系の状況、チームを立て直すために朝日が行ったこと、朝日のプレーによって何が変わったか、戦争によって朝日がどうなったか、および戦後どのように評価されたかを理解するとともに、海外出身の選手が直面する問題について議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 10	ミドリムシとはどのような生物か、またどのような利用法があるか、出雲さんがミドリムシ研究を始め、成功するまでの経緯、現在どのような目的でミドリムシが研究されているかを理解するとともに、日本が温暖化ガスの排出を減らすためにできることについて議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Further Reading 2	モモとその友人たちの性格や主張、人々の時間がどのように奪われていったか、モモと灰色の男たちの攻防、およびモモがどのように人々の時間を取り戻したかを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			CNN 16,17,18,19,20 Listening Coach 16,17,18,19,20	ナチュラルスピードでの音読、聴き取りができることを目指す。 ニュースで扱われた題材についての関心をもつ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				第4回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	外国語・コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	ことばと人間との関係やことばと社会との関係など幅広くことばへの関心を高め、思考力、表現力の育成を促し、豊かな言語観を育てる。また、ことば、文化、民族の多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成と図る。英語の学習を通して、自ら考え、判断し、表現できる力を培う。
使用教科書・副教材等	『Element English Communication Ⅱ』(啓林館) 『Element WorkBook Standard』(啓林館) 『必携英単語LEAP』(数研出版) <1年次からの継続> 『CNN Workbook Extended Course 2020』(朝日出版社) <1年次からの継続> 『Listening Coach』(いいずな書店) 『SKYWARD Ocean course』(桐原書店) 『SKYWARD Clouds course』(桐原書店) 『TACTICS 10』(桐原書店)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業内での活動、課題の取り組み状況、小テストを得点化し、総合的に評価する。	25%
b. 外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査、小テストを得点化し、総合的に評価する。	25%
c. 外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査、小テストを得点化し、総合的に評価する。	25%
d. 言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査、小テストを得点化し、総合的に評価する。	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	Lesson 1	非音声的言語とは何かを理解し、その種類を理解するとともに、文化によって異なる非音声的言語について書く。	○	○	○	○
			Lesson 2	スティーブ・ジョブズが大学をやめたり、会社を解雇されたり、病気になったりして得た教訓を理解するとともに、かの有名なスピーチから感銘を受けた部分をレクチャーする。	○	○	○	○
			Lesson 3	ジャックが研究を始めた経緯、研究におけるジャックの苦労、およびジャックが成功した理由について理解するとともに世界を変えるために何ができるかについて書く。	○	○	○	○
			CNN 4・5・6・7・8	ナチュラルスピードでの音読、聴き取りができることを目指す。 ニュースで扱われた題材についての関心をもつ。	○	○	○	○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	Lesson 4	イレーナがユダヤ人のために行ったこと、イレーナが警察につかまってから解放されるまでの経緯、およびイレーナの後悔について理解するとともに自分がイレーナの立場だったらどうするかについて書く。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Further Reading 1	川渡しをしている男が出会った難問、男がどのようにして難問を解いたか、難問を解く仕組みについて、およびなぜ誤った思考に陥るのかについて理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 5	宇宙ごみとは何か、宇宙ごみが引き起こす問題、宇宙ごみ問題の解決のために行われている取り組みについて理解するとともに宇宙探査に資金を費やすべきかについて議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
後期	10 11 12	35	CNN 9・10・11・12・13・14	ナチュラルスピードでの音読、聴き取りができることを目指す。 ニュースで扱われた題材についての関心をもつ。 第2回考査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 6	ブルースとワトソンの関係がどのようなものだったか、彼らの別離と再会、ブルースの病気と、病気に対してどのように立ち向かったか、全米オープンでの2人の様子について理解するとともに、日米での好きなスポーツの違いについて議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 7	山中博士がiPS細胞の研究を始めた経緯、iPS細胞でどのような問題が解決するか、激化する再生医療分野での競争について理解するとともに有名な日本人研究者について意見を交換する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	1 2 3	35	Lesson 8	犬と人間とのかかわり、犬の品種改良の利点や欠点について理解するとともに、品種改良の是非について議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			CNN 15・16・17・18・19・20	ナチュラルスピードでの音読、聴き取りができることを目指す。 ニュースで扱われた題材についての関心をもつ。 第3回考査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 9	朝日が結成された当時の日系の状況、チームを立て直すために朝日が行ったこと、朝日のプレーによって何が変わったか、戦争によって朝日がどうなったか、および戦後どのように評価されたかを理解するとともに、海外出身の選手が直面する問題について議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Lesson 10	ミドリムシとはどのような生物か、またどのような利用法があるか、出雲さんがミドリムシ研究を始め、成功するまでの経緯、現在どのような目的でミドリムシが研究されているかを理解するとともに、日本が温暖化ガスの排出を減らすためにできることについて議論する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			Further Reading 2	モモとその友人たちの性格や主張、人々の時間がどのように奪われていったか、モモと灰色の男たちの攻防、およびモモがどのように人々の時間を取り戻したかを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			CNN 1~20	ニュースで扱われた題材の中から探究したいテーマを選び、リサーチして論文にまとめる。 第4回考査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

年間指導計画表

教科・科目	外国語・英語表現Ⅱ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書いたり話したりする能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。
使用教科書・副教材等	『be English Expression Ⅱ』(いいずな書店) 『be English Expression Ⅱ Workbook Blue 発展編』(いいずな書店) 『be English Expression Ⅱ My English Portfolio』(いいずな書店) 『be 総合英語』(いいずな書店) <1年次からの継続> 『新演習950英文法・語法問題』(いいずな書店) <全員> 『Path to Speaking 2』(Learn-S) 『Path to Speaking 3』(Learn-S)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション能力を図ろうとする。間違ふことを恐れず、自分の考えなどを表現しようとする。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表	25%
b. 外国語表現の能力	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表、定期考査	50%
c. 言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表、定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
前期	4 5 6	17	Lesson 1 夢・将来(時の表し方) Lesson 2 文化・行事(動詞と文の構造) Lesson 3 ペット(助動詞) Lesson 4 情報と社会(名詞と限定詞) Lesson 5 世界の国々(代名詞) Lesson 6 外国での生活(名詞句と名詞節) Lesson 7 利便性(形容詞) Lesson 8 幸福(形容詞句)	各レッスンのテーマに関する英文を読んだり聞いたりして、内容を理解したうえで、学習内容記載の表現テクニックを使って、文を自分で書いたり、話したりして相手に伝えたりできる。 より幅広い話題・場面・状況において40wpm程度の速さで即興で話すことができる。 与えられた話題について、10分間で60~70語程度の文章を書くことができる。	○	○	○
			第1回考査	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c
前期	7 8 9	18	Lesson 9 活動(形容詞節・関係詞節) Lesson 10 社会的慣習(副詞) Lesson 11 思い出(副詞句) Lesson 12 電子機器(副詞節) Lesson 13 進路(比較) Lesson 14 想像(仮定法) Lesson 15 教訓(複文での動詞の使い方) Lesson 16 コミュニケーション(「言う」「見る」「聞く」の表現) Lesson 17 社会問題(認識の表現)	各レッスンのテーマに関する英文を読んだり聞いたりして、内容を理解したうえで、学習内容記載の表現テクニックを使って、文を自分で書いたり、話したりして相手に伝えたりできる。 より幅広い話題・場面・状況において40wpm程度の速さで即興で話すことができる。 与えられた話題について、10分間で70~80語程度の文章を書くことができる。 第2回考査	○	○	○
			Lesson 18 生活と住居(許可・提案・勧誘・依頼・要望の表現) Lesson 19 旅行(存在や変化の表現) Lesson 20 健康(「させる」「される」の表現) Lesson 21 興味・関心(日本語とは違う表現方法) ○プレゼンテーション	学んだことや見たり聞いたりしたことをもとに英語でプレゼンテーションを作成し、発表することができる。ここでは、プレゼンテーションの作り方に加え、発表の仕方、非言語の使い方も学ぶ。 より幅広い話題・場面・状況において50wpm程度の速さで即興で話すことができる。また問われた質問に簡単な英語で即興で答えることができる。 与えられた話題について、10分間で70~90語程度の文章を書くことができる。 第3回考査	○	○	○
後期	10 11 12	18	○ディベート	他教科で学んだことや見たり聞いたりしたことを元にディベートの型にはめてなら討論ができるようになる。ここでは、論の立て方や反論するときの英語の表現を学ぶ。 より幅広い話題・場面・状況において50wpm程度の速さで即興で話すことができる。 与えられた話題について、10分間で80~90語程度の文章を書くことができる。 第4回考査	○	○	○
	1 2 3	17			○	○	○
【その他】 前期では、教科書を使って、学習指導要領が定める「事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす」ことをめざし、1年生のときより精選したアウトプットを行っていきます。その際、必要に応じて既習の文法項目を見ながら1年生で習ったことを「使える」ようになっていきます。後期では、プレゼンテーションとディベートを中心に行います。1年生で習ったことを繰り返し色々な場面で使っていくことで、言語知識の精緻化を図っていきます。なお、週2単位のうち1単位はALTの先生との授業になりますが、週2つの授業は連結しています。							

年間指導計画表

教科・科目	英語・英語表現	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書いたり話したりする能力を更に伸ばすとともに、事実や他者の意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えることができる。
使用教科書・副教材等	『21st Century Communication Listening, Speaking, and Critical Thinking』(National Geographic Learning) <CTクラス> 『The Culture Map』(PUBLIC AFFAIRS) <ATクラス> 『be English Expression II Workbook Blue 発展編』(いいずな書店) <全員> 『新演習950英文法・語法問題』(いいずな書店) <全員> 『be 総合英語』(いいずな書店) <1年次からの継続>

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	与えられた課題に対して推測や質問などによって理解を深めようとするとともに、積極的に話す書くなどして、主体的に課題に取り組もうとする。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表	25%
b. 外国語表現の能力	伝えようとする事実や意見などを、相手に分かりやすく、適切な英語表現を用いて、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えている。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表、定期考査	50%
c. 言語や文化についての知識・理解	理解や表現の際に必要な英語の語彙・文法・構文・文章構成の知識、および世界情勢や異文化の背景知識を持っている。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表、定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
前期	4 5 6	17	<ATクラス> Lesson 1 :Low-Context vs High Context Culture Lesson 2: Different Ways of Feedback <CTクラス> Unit 1 : Small Actions, Big Results Unit 2 : Connecting to Nature	①授業最初の3分程度で、10問の文法、英作の小テストを解くことで、英語の知識を定着をさせる。 ②与えられたテーマに対して、興味を持ち、積極的に英語で話そうとする。 ③ペアやグループトークの中で、既習の文法、語彙を用いて、幅広い話題について英語で表現する。 ④140wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを5割程度理解する。 ⑤テーマに沿った単語や必要な表現の運用方法を身に付ける。 ⑥様々な話題について、辞書を使って約8分で60語程度の文章を書く。 第1回考査	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c
前期	7 8 9	18	<p><ATクラス> Lesson 3 : Cultural Differences in Persuasion Lesson 4: Respect and Power Differences <CTクラス> Unit 3 :Going Places Unit 4 : Music, Music Everywhere</p>	<p>①授業最初の3分程度で、10問の文法、英作の小テストを解くことで、英語の知識を定着させる。</p> <p>②与えられたテーマについて英語で質問したり、他者との対話によって内容理解に積極的に取り組む姿勢を養う。</p> <p>③グループによるプレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイの中で、相手に興味を持たせるような表現で、自分の意見などを適切な英語で表現する。</p> <p>④140wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを6割程度理解する。</p> <p>⑤英語の表現に適した、非言語のコミュニケーション方法を運用する。</p> <p>⑥様々な話題について、辞書を使って約8分で70語程度の文章を書く。</p> <p>第2回考査</p>	○		○
			<p><ATクラス> Lesson 5 : Decision-Making Processes Lesson 6: Multicultural Trust Building <CTクラス> Unit 5 :Give Thanks Unit 6 : Tell Me Why...</p>	<p>①授業最初の3分程度で、10問の文法、英作の小テストを解くことで、英語の知識を定着させる。</p> <p>②与えられたテーマについて積極的に調査し、その内容をペアやグループで共有するなど、主体的に取り組む。</p> <p>③グループによるプレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイの中で、相手に伝わりやすい、論理的な構成で、自分の意見などを適切に表現する。</p> <p>④140wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを7割程度理解する。</p> <p>⑤より相手に伝わりやすい論理的な文章構成を身に付ける。</p> <p>⑥様々な話題について、辞書を用いず約8分で70語程度の文章を書く。</p> <p>第3回考査</p>	○		○
後期	10 11 12	18	<p><ATクラス> Lesson 7 : Effective Disagreement Lesson 8: Research <CTクラス> Unit 7 :The Livable City Unit 8 : Life Lessons</p>	<p>①授業最初の3分程度で、10問の文法、英作の小テストを解くことで、英語の知識を定着させる。</p> <p>②他者の発表を積極的に聞き、その内容に即した質問や、内容が展開するような発言をする。</p> <p>③自他の発表において、客観的に評価し、改善を試みる。</p> <p>③グループ・個人によるプレゼンテーション、ディスカッション、スピーチにおいて、説得力のある論理的な構成で、自分の意見などを適切に表現する。</p> <p>④140wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを8割程度理解する。</p> <p>⑤与えられたテーマに必要な英語表現、テーマに適した文章構成を身に付ける。</p> <p>⑥様々な話題について、辞書を用いず約8分で80語程度の文章を書く。</p> <p>第4回考査</p>	○		○
【その他】							

年間指導計画表

教科・科目	英語・異文化理解	単位数	1
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	多文化にわたる幅広い知識や異文化コミュニケーションに必要な方略を身につけるとともに、多様なものの見方・考え方を受け入れる情意を育成し、国際協調の精神の醸成を図る。
使用教科書・副教材等	『Element English Communication II』(啓林館) 世界の諸問題に関する英字新聞、インターネット上の記事等

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業内での活動、課題の取り組み状況を総合的に評価する。	25%
b. 外国語表現の能力	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査を総合的に評価する。	25%
c. 外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査を総合的に評価する。	25%
d. 言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	授業内での活動、課題の取り組み状況、定期考査を総合的に評価する。	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	8	教育 文化 自然	教育・文化・自然などの観点から各国の「現在」を英語で学ぶことで以下のことができるようになることを「ねらい」とします。 ①英語で記事を読んで、必要な情報だけを素早くとったり、要約メモをわかりやすく英語でとれるようになる。 ②テーマに対する英語での小講義を聞いて、必要な情報をまとめることができるようになる。 ③①と②で得た情報を回りに英語で書いたり話したりして共有することができるようになる。またその結果、各国の「現在」に関心がもてるようになる。	○	○	○	○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	8	法	法・経済・外交という3つの観点からその国について調べること で、各国の「過去」について英語で学び、以下のことができるよ うになることを「ねらい」とします。 ①英語で記事を読んで、必要な情報だけを素早くとったり、要約メ モをわかりやすく英語でとれるようになる。 ②テーマに対する英語での小講義を聞いて、必要な情報をまと めることができるようになる。 ③①と②で得た情報を回りに英語で書いたり話したりして共有す ることができるようになる。またその結果、各国の「過去」に関心 がもてるようになる。	○	○	○	○
			経済		○	○	○	○
			外交	○	○	○	○	
			第2回考査			○	○	○
後期	10 11 12	8	環境エネルギー	「現在」と「過去」について前期で学んだことを関連付けながら、そ の国の「未来」について情報を収集し、考えて、英語で発信してい くことを「ねらい」とします。そのために以下の「小ねらい」を設定し ます。 ①英語で記事を読んで、必要な情報だけを素早くとったり、要約メ モをわかりやすく英語でとれるようになる。 ②テーマに対する英語での小講義を聞いて、必要な情報をまと めることができるようになる。 ③①と②で得た情報を共有し、各回に出される問いに対する答え を英語で話し合うことができるようになる。またその結果、国際社 会の「未来」に関心がもてるようになる。	○	○	○	○
			科学技術		○	○	○	○
			第3回考査				○	○
	1 2 3	8	異文化を伝える方法（書 く）	①1年間で得た情報をポスターとしてまとめることができるよ うになる。 ②1年間で得た伝達方略を使って伝えることができるようになる。 ③他者の発表に対して感想や意見を述べ合うことができるよ うになる。	○	○	○	○
異文化を伝える方法（話 す）			○		○	○	○	
			第4回考査			○	○	○

【その他】

初回の授業で1つ国を決めて、その国についての学習を1年を通して様々な観点から行っていきます。1人1人が違う国を設定しますので、お互いに情報共有をしていきながら、国内外の情勢、文化、課題等について幅広い知識を身に付けていきます。そのための手立ては、①設定した国が発行している新聞記事の英訳を毎週1つ読み、それを英語で報告すること、②毎回の授業で紹介されるテーマと問い(例えば、環境問題をテーマにし、あなたの国の水問題を解決するにはどうしたらいいですか?を問いにする)についてICT機器を活用して調べたり、他教科の先生のところに質問に行ったりして、得た情報を英語でまとめていくこと、③①②を最終的に報告書とプレゼンテーションという形で発信していくことの3つです。なおこの授業で皆さんがまとめた情報や習得した言語発信スキルは3年生になって行われる予定の「模擬国連」と「卒業課題研究論文」に活用されていきます。

年間指導計画表

教科・科目	国際理解・フランス語	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1)フランス語の基礎を学び、発音とつづり字の読み方を習得する。 (2)口語表現を理解し、簡単な日常会話の習得を目指す。 (3)外国語でのコミュニケーション能力を高めることで、積極性を培う。 (4)フランス及びヨーロッパの社会や文化への理解を図る。
使用教科書・副教材等	(1)inspire 1 (A1 cahier d'activités) (Hachette FLE) (2)仏和辞典 (3)自主作成プリント

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	授業を通して、フランス語やフランス文化に対する関心と理解を深めようとする。	ポートフォリオ トレーニング活動	20%
b. 思考・判断・表現	正しい発音で、自分や第三者について情報を与え、日常生活について描写することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	20%
c. 技能	聞いたことをベースに推測し、自分なりの仮説を立て、適切に反応することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	フランス語の音声的な特徴や文法を理解している。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	(1)inspire 1 Unit 1~4 (2)自主作成プリント	(1)フランス語の発音とつづり字の読み方の概要を学ぶ。 (2)数字0から2000まで習得し、話し聞き取れるようになる。 (3)自己紹介と他者について語る表現を習得し、話し聞き取れるようになる。 第1回考査	○	○	○	○
						○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	(1)inspire 1 Unit 5~9 (2)自主作成プリント	(1)総合テストを行い、学習内容を習得する。 (2)時刻の表現を学び、自分の生活のしかたを話せるようになる。 (3)相手・第三者の生活のしかたについて質問し、聞き取れるようになる。 (4)授業を通して、フランスおよびヨーロッパの文化や社会に対する基本的な知識を身に付ける。 第2回考査	○	○	○	○
								○
後期	10 11 12	18	(1)inspire 1 Unit 10~13 (2)自主作成プリント	(1)基本となる30の動詞の活用を学ぶ。 (2)動詞の近接未来形の意味を理解し、活用を学ぶ。 (3)総合テストを行い、学習内容を習得する。 第3回考査	○	○	○	○
								○
	1 2 3	17	(1)inspire 1 Unit 13~19 (2)自主作成プリント	(1)基本となる10個の前置詞を習得し、空間的に位置付けながら語る表現を学ぶ。 (2)動詞の複合過去形の意味を理解し、活用を学ぶ。 (3)道順を尋ね、教える表現を学ぶ。 (4)一年間の学習事項の再確認をする。 第4回考査	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	国際理解・中国語	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1)中国語の基礎を学び、発音とつづり字の読み方を習得する。 (2)口語表現を理解し、簡単な日常会話の習得を目指す。 (3)外国語でのコミュニケーション能力を高めることで、積極性を培う。 (4)中国の社会や文化への理解を図る。
使用教科書・副教材等	新・高校版 中国語はじめの一步(白水社) 自作プリント

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	授業を通して、中国語や中国文化に対する関心と理解を深めようとする。	ポートフォリオ トレーニング活動	20%
b. 思考・判断・表現	中国語の勉強を通して、中国語の文法、中国人の考え方を理解することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	20%
c. 技能	正しい発音で、自分や第三者について情報を与え、日常生活について、描写することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	幅広い話題を通して、中国文化を深く理解する。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	主に中国語の基礎(ピンイン)、基本文型を学ぶ。	中国語の発音の基礎「ピンイン」と名前の言い方を学習する。 人称代名詞・指示代名詞、「主語+述語」・「主語+述語+目的語」を学習する。授業を通して、中国の社会、文化に対する基本的な知識を身に付ける。	○	○	○	○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	主に中国語の基礎(ピンイン)、基本文型を学ぶ。	数字・親族呼称・衣食住についての言い方、疑問詞と疑問文を学習する。 比較文、選択疑問文、前置詞の使い方、主述述語文を学習する。 まとめ、総合練習を行う。	○	○	○	○
				第2回考査			○	○
後期	10 11 12	18	単語を覚え、日常会話をしながら、聞き取りと会話能力を高めるようにする。	年月日・曜日・年などの言い方と使い方、名詞述語文、省略疑問文を学習する。 助数詞・時刻・金額などの言い方と使い方、所有・存在の表現を学習する。	○	○	○	○
				第3回考査			○	○
後期	1 2 3	17	簡単なコミュニケーションができ、簡単な文が作れるようにする。	復習、方位詞の使い方・主述述語文を学習する。 完了の「了」の使い方、量詞のまとめ、過去の経験の使い方、願望の言い方を学習する。 まとめを行う。	○	○	○	○
				第4回考査			○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	国際理解・韓国・朝鮮語	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 韓国・朝鮮語の母音, 子音, 終音の発音を正確に出来るようにする。 (2) 発音の文法を正確に理解し, 長文を読めるようにする。 (3) 韓国語スピーチ能力の基礎を築き, 人の前で発表出来るようにする。その過程で韓国・朝鮮の文化, 習慣に対する理解を高める。
使用教科書・副教材等	(1) 한국어1・韓国語1 (TWO PONDS [주] 문진미디어) (2) 自主作成教材

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	授業を通して、韓国のいろいろな知識、韓国文化に関心と理解を深めようとする姿勢を育て、日本と朝鮮半島との友好と親善の歴史を正しく理解する。	ポートフォリオ トレーニング活動	20%
b. 思考・判断・表現	韓国語の基本的な読みの文法を習得し、短い会話文を正確に読み、その過程で日本と韓国の生活習慣の共通点と違いを理解することができるようにする。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	20%
c. 技能	初めて見る文章を、その場で基本的に正確に読め、その訳を辞書で調べることが出来るようにする。また韓国語を聞いて、書き取りが出来るようにする。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	韓国の食文化, 歌, 民俗遊び等の幅広い話題を通して、韓国文化の理解を広める。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	ハングル(1)母音 子音 ハングル(2)(3)(4)読み ハングル(5)(6)(7)読み 1課 教室ー1 2課 教室ー2 3課 自己紹介 4課 教室ー3 5課 簡単な対話	子音 母音 半切表 平音(1) 平音(2) 激音 濃音 合成母音 パッチム N은 무엇입니까? N입니까? 아니요 N가 아닙니다. V습니다/입니다. (으)십시오 N은 V지 않습니다 第1回考査	○	○	○	○
					○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	6課 天気 7課 曜日 8課 部屋 9課 昨日のこと 10課 部屋	助詞, N이 Aㅂ니다. 曜日, 羅列の連結語尾 S고 S V/A아요/어요 過去形 V/A았어요/었어요 変則 S지만 S 「韓国語スピーチ」発表会 第2回考査	○	○	○	○
			11課 電話 12課 お店 13課 食堂 14課 交通手段 15課 バスの停留所 16課 招待	V(으)세요. V겠어요. N은 얼마입니까? V(으)니까요? V(으)ㅂ니다. S(으)니까S.V아야/어야 하다. V어야/아야 하다.어떻게 할까요? V(으)려고 하다.V(으)로 오다/가다. 授業を通して、韓国・朝鮮の文化や社会に対する基本的な知識を身に付ける。 第3回考査	○	○	○	○
後期	10 11 12	18	11課 電話 12課 お店 13課 食堂 14課 交通手段 15課 バスの停留所 16課 招待	V(으)세요. V겠어요. N은 얼마입니까? V(으)니까요? V(으)ㅂ니다. S(으)니까S.V아야/어야 하다. V어야/아야 하다.어떻게 할까요? V(으)려고 하다.V(으)로 오다/가다. 授業を通して、韓国・朝鮮の文化や社会に対する基本的な知識を身に付ける。 第3回考査	○	○	○	○
	1 2	17	1年間で学んだ内容を総合的に練習する。 スキット① スキット② スキット③	総合的に練習する。 寸劇を通して会話力を高める <体育の時間> <ラーメンといえばキムチでしょう> <トッポッキ友だち> 第4回考査	○	○	○	○

令和4年度 ABLE Time (エイブル タイム) (総合的な探究の時間) 年間指導計画

広島市立舟入 高等学校 全日制 課程 (普通科普通、普通科国際コミュニケーションコース)

実施学年 (2) 年

学校において定める 目 標		<p>(1) 自己の在り方生き方を考えながら、現代社会の問題を自己の問題としてとらえ、課題を発見し、「問い」を立て、よりよく課題を解決していくための資質・能力を育成する。</p> <p>(2) 共働的な活動を通じて、多面的な他者理解と自己の相対化を図り、「対話」の態度を養う。</p> <p>(3) 自己の思いや考えを、相手にわかりやすく発信する力を育てる</p>
内 容	探 究 課 題	・現代社会への問題意識と「問う」力の育成 (普通・国際コミュニケーションコース)
	育成を目指す 具体的な 資質・能力	<p>(1) 探究のリテラシーや意義・価値への理解を活用した探究分野に対する興味・関心・理解の伸長および深化と、「問い」を立てる技能</p> <p>(2) 自分の探究する分野について、自ら「問い」を立てたうえで、情報収集やその整理、分析を通して、論理的な結論を導く力及びそれらを多様な形で表現し、相手にわかりやすく発信する力</p> <p>(3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むことを通して、自己の生き方についてよりよく考察する姿勢及び現代社会の問題を自己の視点で見出し「自分事」として捉える態度</p>
付与する単位数		<p>普通科普通 1単位</p> <p>普通科国際コミュニケーションコース 2単位</p>
授業時数の配当方法		<p>1単位を週ごとに割り振り実施する。</p> <p>国際コミュニケーションコースはさらに修学旅行及び事前・事後学習を1単位とする。</p>
学 習 活 動		<p>(1) 問立て学習 (「問う」力を育成するための実践を行う)</p> <p>(2) 平和学習 (平和について考察することを通して論理的思考力・判断力・表現力を高める)</p> <p>(3) 言語学習 (小論文やレポートを書くことを通じて論理的思考力・判断力・表現力を身につける)</p> <p>(4) 異文化理解 (海外修学旅行において異なる文化、価値観にふれ、異文化に対する理解を深めるとともに、コミュニケーション力をさらに高め、真の国際感覚を身につける) (国際コミュニケーションコース)</p>
教 材 の 使 用 等		プリント教材、新聞、書籍など
指導方法・指導体制		<p>(1) イノベーションデザイン部において、年間指導計画および指導案を策定する。</p> <p>(2) 学年会において、年間指導計画および指導案を検討し実施する。</p>
評価規準・評価方法		ポートフォリオ、生徒の自己評価、授業観察、プレゼンテーションなどによって評価する。

単元	月	探究の過程	学習内容・学習活動	時数	学習活動（場所）	各教科・特別活動等との関連・指導上の留意点等
世界を考え、表現する	4月	ガイダンス	・全体説明会	1	学年単位（講堂）	・1年間の目標と活動内容を確認する。
	5月	準備	・外部講師を招聘して、講演を行う。 ・問立て学習 ・自己の進路に関する現代の諸課題を書籍や新聞等で調査し、各班で研究するテーマを模索する。 ・海外修学旅行の事前学習（国際）	4	班単位（教室）	・自分の身近な興味関心から問を立てる方法を身につける。 ・自己の進路に関する諸問題について、どのような貢献ができるか考察させる。 ・修学旅行の行き先について調べる。（国際コース）
	6月	準備	・各班で研究するテーマを決定し、テーマについて調査研究する。	3	班単位（教室）	・グループ内共有を通じて、表現する力を養うとともに、相互に評価させることで他者理解を図る。
	7月	準備 実践	・研究テーマの深化	3	班単位（教室） 学年単位（講堂）	・夏季休業に行う研究テーマの調査計画を自分で考えさせる。
	8月	準備 実践	・研究テーマの調査 ・修学旅行関連事項調べ（国際）	1	夏課題	・夏課題として、修学旅行関連の事項の資料収集を課す。（国際）
	9月	準備 収集	・夏季休業中の調査などを基に社会問題を考え、ディベートなどを実施する。 ・海外修学旅に向けグループで調査研究を進める。（国際コース）	2	班単位（教室）	・レポートの共有とレポートテーマに基づく探究グループ作成 ・ディベートを通じて他者の理解を深めるとともに、探究グループで議論することで協調性を養う。
	10月	準備 収集 実践	・探究を進める ・平和学習	2	班単位（教室） 組単位（海外）	・リサーチに基づく論理的な意見の構築と説明・表現の技術を習得させる。
	11月	準備	・説得力のある発表の仕方について学び、練習する。 ・海外修学旅行で学んだことを整理する。（国際コース）	4	班単位（教室）	・グループごとに探究の成果としてスライドを作成する。
	12月	実践	・スライドをクラス内・クラス間で発表し、優秀作品を選出する。	3	班単位（教室）	・他の発表に対し、評価・分析する態度を養う。
	1月	準備 実践	・研究の深化 ・発表準備	4	班単位（教室）	・小論文の記述方法・評価方法に個人レポートについて説明・指導する。
2月	実践	・全体発表会 ・個人レポート作成	4	班単位（教室） 学年単位（講堂）	・外部講師を招聘し、課題研究発表会を実施する。	
3月	振り返り	・1年間の振り返りと自己評価	1	組単位（教室）	・1年を振り返り、自己評価をさせる。その評価をもとに、教員が評価する。	
備考	国際コミュニケーションコースについては、修学旅行及び事前・事後学習を1単位とする。					